

No. 30 >>> Contents

●提携支援センターから

「国際楽器博覧会に純国産絹絃を提案し新たな市場へ」

・・・和楽器絃製造 丸三ハシモト株式会社 代表取締役 橋本 英宗 ————— 1

天蚕商品の現状と今後の販売戦略

・・・・・・ りょうぜん天蚕の会 会長 柳沼 泰衛 ————— 6

熊本市で純国産絹製品展を開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ————— 11

平成 24 年度第 6 次分の純国産絹マーク使用許諾状況・・・・・・・・・・ ————— 15

提携支援センター活動日誌・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ————— 18

●提携事業と新蚕品種

いくつかの特徴ある蚕品種

・・・・・・ (財)大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 所長 井上 元 ————— 19

●蚕糸絹情報

万能繰糸機の特長と商品開発の取組み

・・・・・・ (財)大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 所長 清水 重人 ————— 23

●蚕糸絹トピックス

博物館を運営してシルクの文化を考える

・・・・・・ 駒ヶ根シルクミュージアム 名誉館長 岩下 嘉光 ————— 27

●全国連絡協議会だより

平成 25 年度協議会事業の協議と承認・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ————— 32

●国内情報

シルク遺産を訪ねて⑨ 東京農工大学科学博物館

・・・・・・ 東京産業考古学会 副会長 平井 東幸 ————— 34

●イベント情報————— 36

●純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧————— 39

●蚕糸絹関係博物館一覧————— 45

●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧————— 47

●統計資料 (統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。) ————— 48

「国際楽器博覧会に純国産絹絃を提案し新たな市場へ」

和楽器絃製造 丸三ハシモト株式会社

代表取締役 橋本 英宗

滋賀の風土を活かして和楽器絃づくり

滋賀県の北部、湖北地域は有数の養蚕地帯でありました。また長浜市木之本町大音地区では平安時代以前から製糸業が栄え、賤ヶ岳から流れる伏流水を使用する生糸は実に白く、また生繭による特殊座繰り製糸のため非常にコシが強く楽器糸として非常に高い評価を得てきました。また当社は、蚕糸・絹業の提携グループに2グループ参画しています。

・「邦楽器糸用特殊生糸を守る会」

(岐阜県産繭)

・「千葉県ブランド繭推進協議会」

(千葉県産繭)



写真1 戦国の決戦地・賤ヶ岳から見下ろす琵琶湖、絶景です

当社は1908年創業以来こうした生糸を使い、琴、三味線、琵琶、胡弓など和楽器の絃を作り続けております。和楽器の絃の製造はほぼ手作業で行い、およそ14工程を経て完成させて全国津々浦々の邦楽関連の会社に卸しております。プロの邦楽演奏家の方々に多くご愛用頂いており、特に三味線などは歌舞伎座や国立劇場など様々な舞台でお使い頂いております。先日竣工した歌舞伎座は、東京・銀座の新しい観光スポットとして注目されるだけでなく、邦楽文化のカンフル剤となり和楽器にも脚光を与えられることを期待せずにはられません。



写真2 丸三ハシモト（株）での絹絃づくり



写真3 純国産絹絃・三味線糸（長唄用）

世界的に珍しい絹絃製造

絹絃の音色は万感を表すと言われており、奏者の弾き方で人の喜怒哀楽やその風景などを表現することが出来ます。繭のか細い糸を合わせ、何百本何千本を一本にし、楽器糸独自の撚りをかけて出す音色は非常にやさしく、まろやかで心休まる気持ちになります。この音色が日本人の感情や四季折々をうまく表し、まさに絹絃こそが日本の音色と言えるでしょう。

世界的に絹絃を使用する文化をもつのは日本をはじめ韓国、台湾、そして中国等東アジア周辺です。西洋文化は本来ガット弦（羊の腸でできた弦）を使用していましたが、現在はスチール弦が主流となっています。耐久性と音量で他より勝るため、全世界をみてもスチール弦全盛となっており、絹大国の中国でさえ二胡、琵琶、琴などの伝統楽器にはスチール弦を使用しているのが現状です。世界的に絹糸による絃というものは、今となってはわずかの国と地域が使用するだけとなり、希少な文化として伝承されています。

ですから当社のような絹絃製造メーカーは、日本全国に5社ほどしかありませんが、世界的に見ても非常に珍しい会社となっています。

中国の伝統楽器市場

日本の伝統楽器のルーツは中国にあり、日本の絹絃も中国より伝来したもののなのですが、その中国では文化大革命（1966～1976年）の頃よりスチール弦に変更されていきました。この現状について当社も疑問を感じ、一つの仮説を立てることにしました。

～中国の伝統楽器は現在スチール弦が主流だが、40年以上前までは長い歴史の中ずっと絹絃であった。絹絃は耐久性でこそスチール弦に劣るが、まろやかで奥深い音色がするため音を追求する演奏家にとっては非常に興味があると考えられる。しかし、現在中国国内で絹絃を製造する企業がごくわずかになっている上、中国国民の趣向が多様化している。そのような状況下で当社の伝統技術が培った高品質な絹絃を提案すれば、多くの方から関心を集めることができるのではないか～

それからリサーチを開始し、日本在住の著名な中国人演奏家や現地の取材をされているメディアの方などに聞いてみたところ、やはり中国には高品質な絹絃がないとのこと。しかし、質の良い絹絃を切望している人が存在するらしい。それなら中国

へ絹絃を売り込みに行こう、ということになりました。当社も洋楽器や韓国の楽器絃など色んな絃に挑戦してきましたが、本場中国の絃に挑戦することは夢でもありました。今まで中国は「世界の工場」と言われてきましたが、これからはますます「世界の市場」になっていきます。中国伝統楽器市場は日本の数十倍もあり、まだまだ成長すると聞いています。あまりリスクをかけずに失敗したならやめればいい、その位の気持ちで挑戦が始まりました。2011 年春のことです。

中国伝統楽器絃の開発

それから中国伝統楽器である二胡や琵琶、古琴等の楽器を入手し、絹絃の開発を開始しました。これまでの当社の技術で割と容易に二胡や琵琶の絃の開発は進み、2011 年 10 月に中国上海で行われた国際楽器博覧会「MUSIC CHINA」に始めて出展しそれら商品を紹介しました。日本から絹絃製造メーカーが出展することが主催者の目にとまり、当初よりメディアで紹介さ

れたため、出展ブースには物珍しさもあり多くの方が来られました。

音色についても絹絃を知っている方には非常に評価が高く、何度も手にとって演奏していらっしゃいました。ただ、当社の絹絃は貿易などのこともあり値段は従来品に比べかなり高価であるため、二胡などを嗜む購買層をターゲットにすることでは流通にのせる事がなかなか難しいことがわかりました。

古琴から生まれた出会いと挑戦

その展示会に問い合わせを頂いた中で一番多かったのは「古琴の絹絃はありませんか？」でした。まず古琴とは日本で言う七絃琴のことで、はるか昔、孔子が好んで以降、文人が嗜む由緒ある楽器となり、演奏については哲学的な要素も加わり現代では演奏者は比較的富裕層に多いのも特徴で、現在でも一部のこだわりのある演奏家の間では絹絃が使われています。ただ古琴の絹絃は製法上、他と比べて非常に難しく、

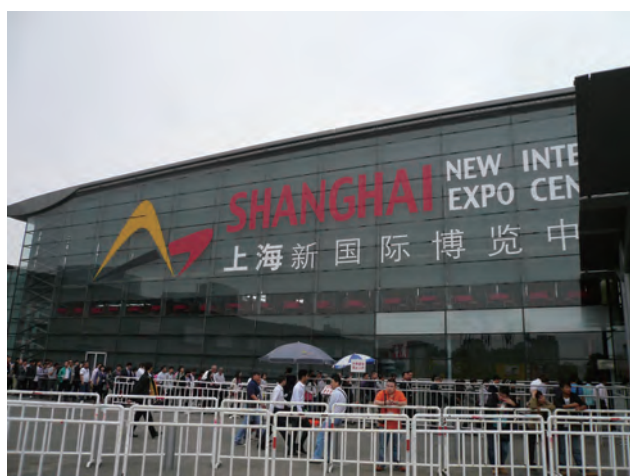


写真 4 国際楽器博覧会 MUSIC CHINA



写真 5 国際楽器博覧会展示ブース

2011 年の展示会には開発が間に合わなかったのです。しかし古琴製作家兼演奏家で世界的に知られている王鵬氏が、その時ブースに來訪したことで事態は変わりました。

「ぜひ古琴の絹絃を作って欲しい」と要望されたからです。彼が製作した古琴は映画「レッドクリフ」や、北京オリンピックのオープニングで使われるほど非常に質が高く、芸術品として名を博しています。彼に太鼓判を押してもらえることで、今後が決まると考え、展示会から帰国後すぐに古琴の絹絃製作に注力しました。

しかし古琴の絃製作で一番難しいのは、七つ絃がある中で太い方から 4 本の絃について、通常の絹絃の周りに細い絹糸を巻きつける「纏糸（てんし）」と言う加工をしなければいけないことでした。これは日本では幕末以来失われた技術であったため非常に開発に手を焼きました。そのため大日本蚕糸会・提携支援センターのご助力により纏糸加工をする新たな機械を購入したと



写真 6 著名な古琴製作家・演奏家の王鵬氏



写真 7 絹絃の品質に満足して握手を交わす
王鵬氏と筆者

ころ思いのほか開発が進みました。昨年 9 月に再度北京の王鵬氏を訪れ試して頂いたところ、「私が 20 数年来探していた音色だ」と高い評価を頂き大変喜んでいただきました。

その翌月の 2012 年 10 月には二度目となる国際楽器博覧会「MUSIC CHINA」への出展で広く古琴の絹絃を PR したところ、やはり非常に音色が良いという評価を得ることができ、現在、慎重に流通先を現地代理人と共に選定し販路開拓に向け準備をしております。夢であった中国伝統楽器市場への参入もあと一歩で現実のものとなりつつあります。

純国産絹絃の魅力

当社の古琴絹絃が高い評価を得たのは長年日本で培ってきた技術と原料である国産の生繭を使った座繰り製糸によるところが大きいです。純国産生繭のセリシンを落とすことなく、低速で、しかも大変きれいな水を使うことで中国の既存の絃には

ない音色、コシ、そして真っ白な光沢と艶が産まれたのだと考えます。

展示会で訪れたお客様からも「こんなに白いのはポリエステルですか？絹ではないでしょう」と言われたほどでした。もちろん純国産絹絁です。また滋賀県長浜市木之本町大音の特殊座繰り生糸を製造している「大音特殊生糸組合」のパンフレットを見せると誰もが食い入るように見つめ、高品質で昔ながらの製法を大事にしている生糸

に非常に興味を持っていました。

当社が使用している生糸には非常にこだわりを持っております。この生糸だから他の商品と差別化することができるのです。“この生糸ありて、この絹絁あり” 純国産の生糸と共に今後も歩み続け、会社は小さくても世界を代表する絹絁メーカーと言われるようになって「丸三ハシモト」の名を世界中の人に知って頂けたらと今もはかない夢を持っております。



写真 8 大音特殊生糸組合での座繰り繰糸

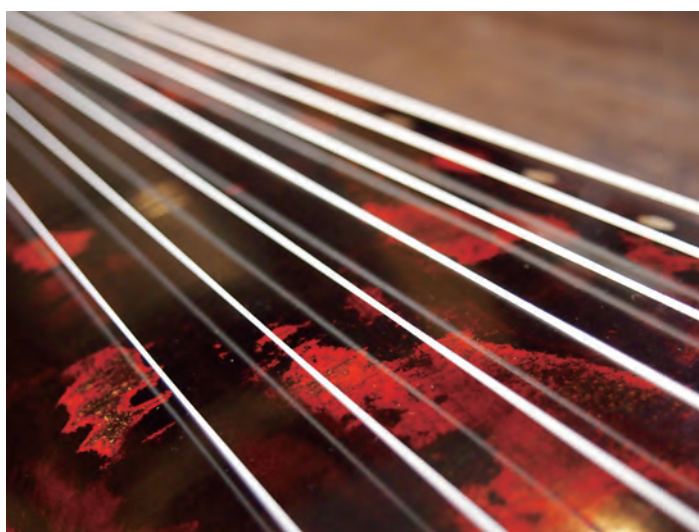


写真 9 白く透きとおった純国産絹絁（古琴）

天蚕商品の現状と今後の販売戦略

りょうぜん天蚕の会

会長 柳 沼 泰 衛

福島県伊達市では、3.11の東北地方太平洋沖地震に伴う東京電力福島第一原発事故の災害以降、農産物ばかりでなく工芸商品分野でも風評被害に悩まされています。その対応として、放射能のデータを予め発信して安全性を訴えたり、自主活動を展開していますが、販売実績は回復していないのが現状です。

天蚕商品については、これらに強い作目であることを折に触れ話題提示を行ってきましたが、東北地方のデパート等での展示販売企画の段階で、天蚕繭や糸に放射能がついてないのか！等のこだわりは払拭されていないのが現状でした。

もちろん、経済不況も重なっていますが、手をこまねいてばかりではとの思いで、関係機関のご支援をいただきながら、展示会、復興支援イベント、自主的天蚕まつりの開催等に積極的に取り組むこととしました。また、このような時期だからこそ、新しい商品開発と天蚕繭のより安定多収方策について見直しが必要と考えています。

シルク博物館のリニューアルオープンに出展

平成24年4月29日、横浜市で開催された記念式典と新感覚の絹製品（ドレスが多い）展示会に参加しました。実は、このリニューアルオープンに際して、展示品として天蚕紬織りハンドバッグの試作要請があり、出品させていただきました。当会としては、名誉なことであり、誠意を込めて新しい感覚・デザインを検討して製品化しましたので、会員の担当者はうれしい苦勞でもありました。その展示コーナーでは、いろいろな野生絹糸の展示と一緒に飾られ、天蚕糸独特の萌葱色^{もえぎいろ}があざやかであったことが印象的でした。

なお、記念講演として、服飾デザイナーの桂由美さんが、絹製品の特性と今後の服



シルク博物館に展示された天蚕紬ハンドバッグ

飾デザインの方向等について、特徴的なウェディングドレスを展示紹介しながら、アメリカでの10カ年にわたる苦労話を交えお話されていました。その中で、シルク服飾の仕立て、デザイン加工の要点は、生地が羽衣のように薄く（中が透けて見える）かつ柔らかな素材で、絵柄も浮き立つ模様のものが若い女性にうける事を強調されておりしました。

例えば、細い生糸を使った川俣シルク羽二重状の絹布が主流であり、特に天蚕紬糸をドレスの胸元、あるいは裾あたりに少量（高いので）活用して、輝く特性を生かして附加価値をつける製品化が面白いと述べておられました。講演の終わりに、このような天蚕糸の利用を図ることが、中国等の輸入商品に勝つことで、外国にも必ず売れるとまとめられたことに驚嘆した次第です。小生も、これらについて天蚕ハイブリッド生糸の活用に関することと認識していたからです。

つまりは、絹商品の今後のあり方の面で、ある種のこだわりを持つことが、より重要なことに思えたからです。

なお、このシルク博物館に明治初期に、横浜から海外に輸出された当時の花形生糸「掛田折返糸」が収蔵されている事を思い起こし、久しぶりに拝観できるのを楽しみにしていました。このような文化財は、産地の霊山町には存在していません。

純国産「宝絹」展に参加して

去る平成25年1月14日～15日の2日



久し振りに拝観した掛田折返糸
(シルク博物館提供)

間にわたり、東京銀座三越店において、天蚕ハイブリッドショール3種を展示に供させていただきました。東京圏著名デパートでの初体験となりますので、期間内各種有名絹商品の見聞や、結城紬織り工法、真綿づくり等の実演などの伝統技術をじっくり見学もいたし、その奥の深さと技術伝承の大切さを痛感いたしました。紅花染めの体験では、発泡手法には細かな気配りが必要で、神秘的でもあり、初めての試みはとても楽しいものでした。新田先生の丁寧な指導に感謝いたします。帰宅後時々薄い紅花色のハンカチを見えています。

本題となる「天蚕ハイブリッドショール」を見聞していただいた多くの方は、異口同音に、この商品は初めて見ますということでありました。また、ハイブリッド天蚕糸の輝きと色は、自然のまま、染めていない等の説明を大半の見学者に行いましたが、この点の評価を得た反面、ハイブリッドの意味と素材特性についてはほとんど分からず、カイコの品種改良の重要な手法である一代交雑（遺伝学）が語源であること

を説明して納得していただきました。このことは、かなりの人々の共通点でもありました。

一方、多くの絹製品の中で、特異な生糸づくりの関係で心に残ったのは、雄の蚕品種のみで育てた糸の細さとドレープ性が最高とも云えるプラチナボーイ、13 デニールの細繊度で白生地を作り、染め効果抜群な松岡姫、あるいは生繰りと青熟系品種を用いるなど、しなやかな安定した糸質をめざして努力している東京シルク等こだわりの商品づくりには、やはり繭・糸質の改善が基本であることを再認識しました。

天蚕糸の場合、繊度が極めて太いため近年要望の多い羽衣状の織布づくりには課題が多く、その改善方策の一つとしてハイブリッド工法による繰糸（家蚕繭 10：天蚕繭 3 = 45 ～ 50 d）技術を導入し、しなやかさを付与した絹糸を用い、手織したものが今回展示の天蚕ショールなのです。

見学者の皆さんには、できるだけ手での感触（ハーフショールについて）をお聞きしてみましたが、見た目より柔らかい事、



天蚕ショールの展示（銀座三越「宝絹展」）

色等の風合いも良いとの評価がありました。

しかしながら、今後さらに細繊度化に向けたハイブリッド工法の改良を早急に推進し新たな糸づくり法の確定が必要です。その他、結城紬織りを製品化するまでの工程の実演が、私にとっては大きな勉強になり、特に真綿から紬糸をつくる伝統技術には感銘を受けました。その繊細な手さばきは、天蚕の一粒つむぎ法と大変さが共通で、手作りの難しさを実感しました。同時に、その技術の伝承を絶やさないための後継者対策が今後の課題のようにも感じられました。

だてな復魂祭・天蚕まつり等への取組

放射能の風評被害を払拭するため、伊達市災害復興支援事業推進の一環として、平成 24 年 10 月 6 日～7 日及び 10 月 20 日の 3 日に亘り、展示即売を行いました（阿武隈急行保原駅ホール）。天蚕商品は、恒例の天蚕ショール、ハンドバッグ、繭玉各種工芸品、天蚕石鹼等の他、新製品として紬織上衣ジャケット及び袋帯等も特別展示をいたしました。

さらに、天蚕幼虫（5 齢）、観察用飼育ポットの設置、あるいは天蚕繭コサージュづくりや紬糸づくり等の体験（有料）コースを設定するなど見学・体験型イベントとしました。これは、前述の宝絹展示と同様の企画といえます。

この行事の宣伝広報は、伊達市商工観光協会にご協力をいただき、列車内吊り広告



天蚕の幼虫を展示し、好評。(天蚕まつり)

から、新聞等の予告掲載まで実施していただきました。

イベント開催時の入場者の動態からみますと、まず体験を楽しみに遠方から駆け付けた人も多く、予想以上の賑わいで、売上げ倍増の成果を上げました。

特に、季節はずれである緑色の天蚕幼虫の観察では、親子連れが声を上げて吃驚することもあり、その効果の大きいことを実感した次第です。

つまり、何らかの楽しい雰囲気の出るシルク関連の体験メニューを入れることの重要性を再認識しましたが、このことはどんな展示即売でも相通ずることでしょう。

天蚕コサージュづくりも、一定時間内に製品が仕上がるように段取る準備など、会員の皆さんに手間ひまをかけることが多く、大変さもありますが、自らも楽しむこととし、会発展のためとの心意気でそれぞれの立場で頑張っていたいております。

なお、新商品としてのジャケットは、淡い萌葱色と輝きで、独特の風合いを感じた人も多く、人生の節目の記念に贈り物とし

て喜ばれることを強くPRしました。いずれにしても、商品販売に即した活動が決め手で、結果が出なくても諦めないことが肝心と自らに言い聞かせております。

からむし織の里、工芸博物館交流会について

昨年10月29日、伊達市農林業振興公社のご配慮で、南会津の昭和村振興公社の施設、からむし織の里を見学し、併せて交流も行いました。これら施設は、原料苧麻（ちょま）の生産と地場産品育成、中でも600年の歴史を持つとされるからむし織りの手づくりの技を伝承し、織姫を育成しながら体験交流を行っています。

学芸員、織姫の皆さんとの意見交換や貴重なからむし織物見学と、手づくり糸、地機織作業の実演等を見せていただき、織姫となるまで（3年かかる）の体験についても意見交換を行いました。この中で、昭和村からむし織体験生「織姫、彦星」事業では10人位応募がありますが、研修終了後に村に残るのは1～2人とのことです。

一方、学芸員さんとの話し合いでは、今後の伝統織物を存続させる苦労があることと、文化財としての存在意義を広く理解してもらい、応援態勢を確立していくためには、天然繊維にかかわる各分野の協力が必要とのことでありました。

この点、伝統からむし織を基点とし生糸の絹織物、野生の天然糸（天蚕）、さらに麻等を含めた、天然繊維の力を結集させることが大切であるとの認識が得られ、今後県内の絹産業、ニット産業、天蚕の会、か



からむし地機織実演。(からむし工芸博物館)

らむし織の里等による交流会及び合同企画展の開催等を推進することを申し合わせました。

ちなみに、特産品売場での売れ筋は、からむし織の帽子（1万～2万円）であり、都会の女性の購入が多いとのことで、全国各地からの訪問女性客を増やすことが特に肝要です。天蚕商品の開発には、これらのことを念頭に判断することも大切と思われます。

以上、天蚕商品の展示・即売に携わってみて感じたことを私見も交え述べさせていただきましたが、「天蚕」とは何か！も含め天蚕ハイブリッド糸織物製品等は、初めて見るとの声が90%以上で、まだまだP

R不足であり、特に福島県外、都市圏で厳しいことを痛感しました。

今後の商品開発の方向性と販売戦略は

- ①若い女性に適合した魅力ある製品づくりをめざすこと。そのためには、先進的なデザイン性の具備と値ごろ感（高級品としては安いとの感触）が大切であります。
- ②絹単独の伝統的織物商品開発には、天蚕の場合、特に限界があることを実感させられました。

そこで、各種天然繊維の特性を見直すことにより、利活用の幅が広がると思われる、からむしと絹の融合商品化は、既に進んでいます。天蚕と家蚕は、絹糸相互の融合によるハイブリッド天蚕糸がつくられ、実用化と新商品に供されています。

今後は、新商品開発を促進するためにも、天然繊維の力をより結集することが重要と考えていますが、一方放射能対策の一環として、水耕栽培も取りざたされています。

天蚕育でもエゾノキヌヤナギが、発根性再発力に優れているので、病虫害防除対策にもつながる安定多回水耕栽培法の検討も考えているところですが、何かご意見ご提案等をいただければ幸いです。

熊本市で純国産絹製品展を開催

—「作り手からのメッセージ」をアピール—

蚕糸・絹業提携支援センター

純国産絹製品展の開催とマスコミ報道

当提携支援センターは株式会社鶴屋百貨店（熊本市）と共催し、平成 25 年 2 月 13 日（水）～ 19 日（火）の 7 日間、同百貨店 6 階催事場で「純国産絹製品展」を開催しました。この展示会は、今回で 3 回目で、昨年と同様、同時開催として「第 49 回オール群馬繊維織物宣伝販売会（伊勢崎織物協同組合、桐生織物協同組合協力）が開催されたので同催事のお客様が来場され、会期中延べ 1,700 名にのぼりました。

この展示会を開催するにあたっては、農林水産省九州農政局、熊本県、熊本県内の報道機関（熊本日日新聞、熊本放送（R K K）、テレビ熊本（T K U）、熊本朝日放送（K A B）、熊本県民テレビ（K K T）、NHK 熊本放送局、F M K（エフエム熊本）、F M 791（熊本シティエフエム）、一般社団法人日本絹人織織物工業会、社団法人全日本きもの振興会及び社団法人熊本県蚕糸振興協力会のご後援をいただきました。

また、熊本朝日放送（K A B）及び熊本県民テレビ（K K T）がニュースで報道（H25. 2.13（水））し、九州のブロック紙

西日本新聞にも記事掲載（H25.2.15（金）朝刊）されましたので、これを見て福岡市から来場される方もおられました。

出展者及び展示製品

純国産絹製品は、日本の繭・生糸を原料にして日本で製織、染色加工して、この生産履歴を表示した「純国産絹マーク」を添付したものです。この展示会の出展者は、純国産絹マークの使用許諾者である 14 者と（株）絹工房及び渡文（株）の参加を得ました。

（出展者は次の方々です。（別表参照））

奄美島絹推進協議会、荒川（株）、（株）伊と幸、（株）岩田、碓氷製糸農協、（株）小倉商店、織匠万勝、（株）甲斐絹座、（株）加藤萬、絹小沢（株）、（株）絹工房、田中種（株）、（株）千總、富岡シルクブランド協議会、福統織物（株）、渡文（株）

鶴屋百貨店の熊本産繭に対する取り組み

平成 24 年度に熊本県下 7 戸の養蚕農家が 797 kg の繭を生産しました。繭生産農家も 1 戸復活し、前年対比 152% と増産しています。全国の繭生産量 202 トンのうちの 0.4% ですが、全国 24 都府県中 14 番目の生産量になります。生糸量にすると 150



写真1 俵武司氏の講演

kg程度、着尺表地で150反に相当します。

鶴屋百貨店では、熊本県の繭を使った地産地消を目指した付加価値の高い絹製品の開拓に取り組んでおり、その素晴らしい意欲から今後の発展が期待されます。

- ・平成22年度は、白生地（丹後ちりめん、裏地）や手引き真綿掛けふとん。

- ・平成23年度は、結城紬（2反）。

- ・平成24年度は、秋山眞和先生（宮崎県、伝統工芸士）の先染反物（絰）と 志村ふくみ先生（京都府、人間国宝）の作家作品。

熱き思いを語ったトークショーの開催

絹製品の作り手からのメッセージを来場者に伝えるために、トークショーを会期中の2月16日（土）と17日（日）の2日間にわたり開催しました。16日の語り手は、俵武司（㈱千總友仙工場代表取締役）、南修郎（㈱みなみ紬代表取締役社長）。17日は平川秀夫（㈱鶴屋百貨店呉服部長）の各氏が、絹製品に興味のあるお客さんに対し、これまでの純国産絹製品の制作に対する取組や思いを熱く語りました。



写真2 平川秀夫氏の講演

俵武司氏は、㈱千總が京友禅の老舗であるが故に、日本の繭・生糸にこだわり、自ら養蚕農家に出向き、養蚕農家との対話や繭生産を直接手伝っているなどのエピソードについて紹介しました。関係する養蚕農家の状況は、同氏の会社のHPに掲載されておりますのでご覧ください。

南修郎氏は、鹿児島県奄美大島で古代の玉繭蚕品種である「琉球多蚕繭」による大島紬の復活をめざし、自ら桑畑を造成し、蚕を飼い、糸を紡ぎ、本来の大島紬の再現の模様をユーモアをまじえて紹介しました。



写真3 展示製品の説明

平川秀夫氏は、上述の地元熊本の百貨店として養蚕復活と結城紬2反を制作した苦労話を紹介しました。

展示会の様子

蚕の飼育展示コーナーでは、お客様から親戚や田舎で蚕を見たということで懐かしがっておられました。また、小学校で蚕を飼ったという人で何かと足を止める方が多く、私ども説明員や販売員とお客様との間で話が弾みました。

上州式座繰実演コーナーでは、ぐんま

200（白い繭）で繰糸の実演を行いました。お客様は生糸の細さ、引っ張り強さ、光り輝く様子に感心しておりました。また、祖母、母が繭から真綿を紡いで織物を作っていたとおっしゃって懐しがっておられた方もおりました。

最後に、今回の展示会が無事に終わられ、多くのお客様にご満足いただきました。展示出品者、マスコミ各社、行政機関等の皆様方のご協力・後援に深く感謝申し上げます。



写真4 わらまぶし



写真6 座繰りの様子、手前で説明しているのは南修郎氏



写真5 蚕の一生の模型（手前）と蚕の飼育（奥）

(別表)

出展各社の主な展示製品

純国産絹マーク使用許諾者のうち今回は 14 者が出展しました。

出展者	主な展示製品
奄美島絹推進協議会	着尺（大島紬）、名古屋帯（大島紬）
荒川株式会社（京都府京都市）	帯締
株式会社伊と幸（京都府京都市）	色無地着尺（又昔染上、松岡姫染上、松岡姫付下）
株式会社岩田（京都府京都市）	糸錦袋帯、糸錦九寸名古屋帯
碓氷製糸農業協同組合（群馬県安中市）	タオル、ソックス、石鹼
株式会社小倉商店（茨城県結城市）	本場結城紬（絵羽、着尺、帯）
織匠万勝（京都府京都市）	袋帯、九寸名古屋帯、先染着尺
株式会社甲斐絹座（山梨県富士吉田市）	ネクタイ、ストール、スカーフ
株式会社加藤萬京都支社（京都府京都市）	帯揚
絹小沢株式会社（群馬県高崎市）	白生地（新小石丸）、紋付地（世紀 21）、長襦袢地（世紀 21）、 胴裏絹（世紀 21、ぐんま 200）、おくるみ
株式会社絹工房（群馬県富岡市）	石鹼
田中種株式会社（大阪府大阪市）	小紋、名古屋帯
株式会社千總（京都府京都市）	振袖、色無地、小紋、付下
富岡シルクブランド協議会（群馬県富岡市）	ネクタイ、カラパス、ストール
福続織物株式会社（福岡県福岡市）	男帯
渡文株式会社（京都府京都市）	ネクタイ、肌こすり、石鹼

平成 24 年度第 6 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの平成 24 年度第 6 次審査会を平成 25 年 3 月 14 日（木）に開催しました。今回、11 者（うち、新規使用許諾申請が 4 者で新規製品が 9 品目、使用許諾されている者の製品の追加が 3 品目、生産数量の追加が 16 品目）から申請があり、審査委員会で審査した結果、全 11 者に対し、3 月 21 日（木）付けで純国産絹マークの使用許諾をいたしました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規申請者) ふしきあん (株) 布四季庵ヨネオリ 代表者名：佐藤和男 (担当者：佐藤和男) 山形県米沢市門東町 1-1-5 米織会館 2 階 Tel :0238-26-6611 表示者登録番号 :177	先染反物(置賜紬)	15 反	蚕品種 鷹山（ようざん） 繭生産 J A 山形おきたま白鷹支店管内 養蚕農家 製糸 松岡（株） 撚糸・染織（株）新田 撚糸・染織 小松織物工房
	ストール	100 枚	蚕品種 鷹山（ようざん） 繭生産 J A 山形おきたま白鷹支店管内 養蚕農家 製糸 松岡（株） 撚糸（株）シルク 染織 鈴忠織物（有）
(新規申請者) 奄美島絹推進協議会 代表者名：南祐和 (担当者：南晋吾) 鹿児島県大島郡龍郷町大勝 3213-1 Tel :0997-62-3888 表示者登録番号 :178	先染反物 (大島紬)	15 反	蚕品種 春嶺×鐘月、錦秋×鐘和 繭生産 鹿児島県奄美大島の養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 染織（株）夢おりの里
	先染反物 (大島紬)	10 反	蚕品種 春嶺×鐘月、錦秋×鐘和 繭生産 鹿児島県奄美大島の養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 染織（株）みなみ紬
	先染帯地 (大島紬)	10 本	蚕品種 春嶺×鐘月、錦秋×鐘和、 琉球多蚕繭 繭生産 鹿児島県奄美大島の養蚕農家 普通生糸 碓氷製糸農協 太織度糸（株）夢おりの里 手紡ぎ糸（株）夢おりの里 染織（株）夢おりの里
	先染帯地 (大島紬)	10 本	蚕品種 春嶺×鐘月、錦秋×鐘和、 琉球多蚕繭 繭生産 鹿児島県奄美大島の養蚕農家 普通生糸 碓氷製糸農協 太織度糸（株）夢おりの里 手紡ぎ糸（株）みなみ紬 染織（株）みなみ紬

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規申請者) (株) 宮坂製糸所 代表者名: 宮坂照彦 (担当者: 高橋耕一) 長野県岡谷市東銀座 2-13-28 Tel: 0266-22-3116 表示者登録番号: 179	先染帯地 (名古屋帯)	40 本	蚕品種 春嶺×鐘月、錦秋×鐘和 繭生産 J A 上伊那管内養蚕農家 製糸 自社 染色 織処丸重、小杉工房 製織 織処丸重
(新規申請者) (有) シンセイ 代表者名: 清水武彦 (担当者: 清水武彦) 長野県松本市大字中山 4690 Tel: 0263-86-6700 表示者登録番号: 180	ニット (腹巻) ニット (靴下)	100 枚 30 足	繭生産 J A ちちぶ管内養蚕農家 製糸 松澤製糸所 製編・縫製 上島産業 (株)
(製品の追加及び生産数量の追加) (株) 高島屋 代表者名: 鈴木弘治 (担当者: 霧生小牧) 東京都中央区日本橋 2-4-1 Tel: 03-3211-4111 表示者登録番号: 030	(数量の追加) 後染反物 (振袖)	210 枚	繭生産 J A 那須南管内養蚕農家 製糸 松岡 (株) 製織 (株) 竹林 染色加工 (株) 千總
	(数量の追加) 後染反物 (七五三着物)	340 枚	繭生産 J A 那須南管内養蚕農家 製糸 松岡 (株) 製織 美雲織物 (株) 染色加工 (株) 千總
	(数量の追加) 後染反物 (訪問着)	48 枚	繭生産 J A 那須南管内養蚕農家 製糸 松岡 (株) 製織 (株) 竹林 染色 (株) 千總
	(製品の追加) 白生地 (胴裏)	191 枚	繭生産 J A 那須南管内養蚕農家 製糸 松岡 (株) 製織 加賀グンゼ (株)
	(製品の追加) ニット (靴下)	400 足	繭生産 J A につたみどり・J A 碓氷安中 管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 撚糸・精練 昭和撚糸工業 (株) 製編・縫製 タビオ (株)
(製品の追加及び生産数量の追加) 田中種 (株) 代表者名: 田中隆 (担当者: 田中隆) 大阪府大阪市中央区南本町 2-1-8 創建本町ビル 3 階 Tel: 06-6261-2091 表示者登録番号: 060	(製品の追加) 後染反物 (紋意匠・色無地)	30 反	繭生産 J A につたみどり管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 芝井 (株) 染色 高田勝 (株)
	(数量の追加) ニット (靴下)	300 足	蚕品種 春嶺×鐘月 繭生産 J A につたみどり・J A 碓氷安中 管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 撚糸・精練 昭和撚糸工業 (株) 製編・縫製 タビオ (株)
(生産数量の追加) (株) 染織近藤 代表者名: 近藤典博 (担当者: 近藤典博) 岡山県岡山市北区丸の内 1-7-3 Tel: 086-226-5298 表示者登録番号: 107	(数量の追加) 後染反物 (紋意匠・小紋)	10 反	制作企画 田中種 (株) 繭生産 J A につたみどり管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 芝井 (株) 染色 高田勝 (株)

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)	
(生産数量の追加) (株) にしむら 代表者名：笹倉雅人 (担当者：笹倉雅人) 兵庫県西脇市西脇 1041-2 Tel :0795-22-2521 表示者登録番号 :167	(数量の追加) 後染反物 (変一越・小紋) (紋意匠・小紋)	5反 5反	制作企画 繭生産 製糸 製織 製織 染色	田中種 (株) JAにっただみどり管内養蚕農家 碓氷製糸農協 南うちりめん (株) 芝井 (株) 高田勝 (株)
(生産数量の追加) 大門屋 代表者名：高橋弘直 (担当者：高橋弘直) 福井県大野市元町 9-22 Tel :0779-66-2185 表示者登録番号 :128	(数量の追加) 白生地 (表地・牛首紬) (帯地・牛首紬)	7反 8本	蚕品種 繭生産 製糸 製織	玉小石 杉本英夫 加藤機業場 加藤機業場
(生産数量の追加) 株式会社千總 代表者名：仲田保司 (担当者：俵武司) 京都市中京区三条通烏丸西入御倉町 80 Tel :075-211-2531 表示者登録番号 :001	(数量の追加) 後染反物 (振袖)	70枚	繭生産 製糸 製織 染色	山形県内養蚕農家 松岡 (株) 美雲織物 (株) 自社
	(数量の追加) 後染反物 (訪問着)	150枚	繭生産 製糸 製織 染色	山形県内養蚕農家 松岡 (株) (株) 匠 自社
	(数量の追加) 後染反物 (訪問着)	180枚	繭生産 製糸 製織 染色	群馬県内養蚕農家 松岡 (株) 加賀グンゼ (株) 自社
	(数量の追加) 後染反物 (訪問着)	45枚	繭生産 製糸 製織 染色	群馬県内養蚕農家 松岡 (株) 加賀グンゼ (株) 自社
	(数量の追加) 後染反物 (振袖)	150枚	繭生産 製糸 製織 染色	山形県内養蚕農家 松岡 (株) (株) 竹林 自社
	(数量の追加) 後染反物 (振袖)	110枚	繭生産 製糸 製織 染色	福島県・岩手県内養蚕農家 松岡 (株) (株) 竹林 自社
(生産数量の追加) 株式会社宮川呉服店 代表者名：宮川勝彦 (担当者：宮川勝彦) 北海道紋別郡湧別町中湧別中町 561 Tel :01586-2-2042 表示者登録番号 :108	(数量の追加) 後染反物 (付下)	10反	繭生産 製糸 製織 染色	福島県・山形県内養蚕農家 松岡 (株) 小熊機業 (有) (株) 千總

(連絡先)

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 5 階
財団法人日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター
担当：武居、宮下

TEL: 03-3214-1691、FAX:03-3214-1700

E-mail : 武居 : jsa-takei@chic.ocn.ne.jp

宮下 : jsa-miyashita@rhythm.ocn.ne.jp

年月日	活 動 内 容 等
25.3.4 ~ 25.3.6	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る提携グループに対する現地調査 (鹿児島県奄美大島)
25.3.5	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会との打合せ (東京都有楽町 蚕糸会館)
25.3.7	純国産絹製品展示 P R コーナーの運営等に係る情報連絡会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
25.3.8	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る養蚕資材の供給等打合せ (群馬県)
25.3.14	純国産絹マーク審査委員会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
25.3.18	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る養蚕資材の供給等打合せ (群馬県)
25.4.11	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会総会 (東京都有楽町 蚕糸会館)



ジャパンシルクセンターの純国産絹製品 PR コーナー
(今回は田中種(株)製作の訪問着を展示)

いくつかの特徴ある蚕品種

(財)大日本蚕糸会 蚕業技術研究所
所 長 井 上 元

蚕業技術研究所が開発した特徴ある蚕品種を紹介する本シリーズでは、これまで色繭を生産する品種、雄の蚕を飼育するための品種、繭糸が細い品種、玉繭を生産する品種および在来蚕品種を現代化した品種を紹介してきました。最終になる本稿では、その他の特徴ある品種をいくつか紹介します。

1) 繭糸が細い蚕品種 (2)

本誌 27 号で繭糸が 2.2 デニール程度の細い蚕品種として、白繭細 1 号とかい・りょう×あけ・ぼのを紹介しておりますが、その他にも蚕品種「あけぼの」の流れをくむ 2.5 デニール前後の、繭糸が細い品種が提携事業に採択されております。

松岡姫

山形県農業総合研究センターから、「松岡姫」というブランド品種を作出したいとの要望が当研究所（当時は蚕品種研究所）に寄せられました。さっそく、両研究所で育種目標を検討し、四元交雑種で繭糸は 2.5 デニール程度とすることが決まりました。

当研究所が保持している育種素材から、目的にかなう原原種を選出して、予備的飼育試験から二通りの四元組み合わせを構築しました。この両候補を山形県で飼育試験を繰り返した結果、その一つが当地の気候風土に適していると判断され採用されました（図 1）。



図 1 松岡姫の繭

平均的な飼育日数は 25 日、繭の重さは 1.94g、繭糸の長さは 1,381m、繭糸繊度は 2.59 デニール、解じょ率は 75%、生糸量歩合は 19.9%です。

繭糸の繊度曲線は図 2 のとおりです。普通蚕品種の場合は一本の繭糸の太さは放物線のような変化をしていますので、この太さ細さの差を特性の異なる 4 品種の組み合わせによって、繭糸が外層から内層へ徐々に

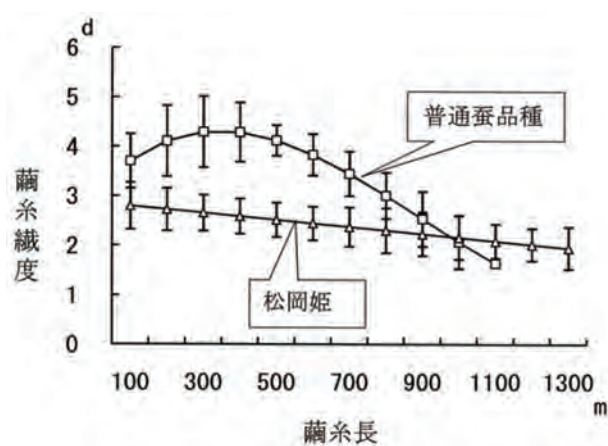


図2 松岡姫の繭糸の繊度曲線

細くなり、繭糸の太さの差と平均繊度が小さくなるようにしました。これによって繊度むらの少ない高級な生糸の製造が可能となりました。この品種は、純日本の絹文化協会「松岡姫」グループの提携事業に採択されています。

蚕技研 11 号

松岡姫の開発で得た知見を参考にして、関東地方の気候に適している四元交雑品種を開発し「蚕技研 11 号」と命名しました(図3)。平均的な飼育日数は 23 日程度、繭の重さは 1.94 g、繭糸の長さは 1,318m、繭糸の繊度は 2.32 デニール、解じょ率は 84.6%、生糸量歩合は 18.6% です。繭糸の繊度曲線は図 4 のとおりです。

この繭のセリシン特性分析からの評価はつぎのとおりです。セリシン 2 が多くハリ・コシが強く、どんな用途にも適合できるし、いろいろな精練方法にも対応できる万能型の品種と言える。糸質が優れている「小石丸」をはるかに凌駕しており、洋服生地やネクタイなどには素晴らしい素材となる



図3 蚕技研 11 号の繭

(平尾銀蔵氏のコメント)。

確かに、中性還元精練によって蚕技研 11 号の繭からセリシンが溶け出す割合を調べて見ましたら、昭和初期の品種で糸質が小石丸に似ていると評価されている「分離白 1 号×支 106 号」と同じくらい精練抵抗性を持っていました。

この品種は提携グループ「アルチザン」に採択され、丹後等で織られた白生地が藤井絞株式会社で染色加工・販売されています。

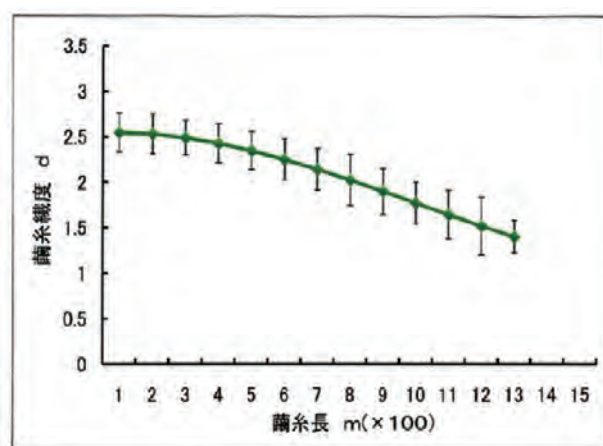


図4 蚕技研 11 号の繭糸の繊度曲線

2) 繭糸が極めて細い蚕品種 極細 1 号

14 デニールの糸で手触りの良い織物を

製作したいとの要望が織物業者さんからありました。そこで、細織度系の四元交雑蚕品種「かい・りょう×あけ・ぼの」の原原種からそれぞれ選抜した2系統をもちいて、1.6 デニールと極細の繭糸を生産する品種「極細1号」を開発しました(図5)。

この品種を飼育された農家の方からは丈夫である、選除すべき繭がとても少ないと言われております。ただし、上簇の際に天井からつり下げられた回転簇から蚕が落下し易いので、回転簇に蚕を投入した場合に、通常よりも長く放置しておき、それからつり下げることが望めます。

平均的な飼育日数は23日、繭の重さは1.70 g、繭糸の長さは1,557 m、繭糸の織度は1.57 デニール、解じょ率は71.0 %、生糸量歩合は16.0 %です。繭糸が細く長いために解じょ率が低くなる場合がありますので、上簇中の温湿度環境を良好にするように努めることが望めます。繭糸の織度曲線は図6のとおりです。

この繭のセリシン特性分析からの平尾銀蔵氏の評価は、セリシン2が多くそれに含

まれる脂質も多いので、コシとハリがあり、コシの強さは「小石丸」を凌駕するであろう。シワの回復力もあり、洋装生地には好適とされています。また、洋装分野の方からはロングドレス向きとのコメントがありました。

極細1号は、茨城県土浦市の呉服店・坂本屋の創立88周年記念の和服制作に用いられており、今、織物業者が洋装のブラックフォーマルや極薄手の洋装生地への利用を研究されています。

3) 昭和時代の蚕品種の復元

昔の着物は良かったと賞賛される声を耳にします。そこで、昭和初期の名品種であった分離白1号×支106号を復元してみたところ、糸がとても丈夫でしたので、染め直しても生地が傷まないと言った昔の着物が賞される所以は、この糸の丈夫さにあると考察いたしました。この発見が契機となって、昭和時代に一世を風靡していた品種を復元してみました。いずれも普通蚕品種ですが、参考として紹介します。



図5 極細1号の繭

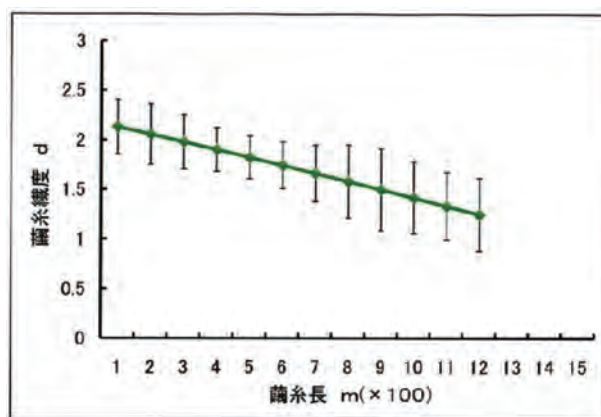


図6 極細1号の繭糸の織度曲線

まず、「**太平×長安**」ですが、これは昭和 21 年に片倉工業株式会社が育成した繭糸が細くて長い品種です。当時は糸質が良いと評判でしたので、目下、糸質を調べているところですが、平成 24 年初秋蚕期は繭糸の長さが 1,250 m で、繭糸繊度は 2.44 デニールでした。染色性も良さそうで、既に塩野屋服部芳和氏が提携事業に採用しております。

つぎに、昭和 24 年片倉工業株式会社育成の「**秋花×銀嶺**」です。平成 24 年初秋蚕期の繭糸の長さは 919 m で、繭糸繊度は 1.98 デニールでありまして、解じょ率は 94.2% と大変良好な成績でした。夏の飼育に適していると見うけられます。染色性も良好です。

三番目は、昭和 32 年に育成された「**豊年×研白**」です。平尾銀蔵氏の評価では、セリシン 2 に含まれる脂質が多く精練抵抗性もしっかりあって精練し易い。セリシン 1 が少なくセリシン全量も少ないので、生糸は軟らかい。それ故、文化財修復のような精練しない糸使いの分野への利用に向いているであろうとコメントされています。繭糸の長さは 1,245 m 位で繭糸繊度は 2.72 デニール程度です。

最後は、昭和 51 年に育成され、関東地方を中心に飼育されていた「**朝・日×東・**

海」です。この品種は、(株)小倉商店小倉敏行社長が 30 年前頃の繭は良かったと当研究所に来所されたことを契機に、(株)小倉商店が主宰する提携グループ「結城紬風土 31 研究会」に採択されています。繭糸の長さは 1,400 m 位で繭糸繊度は 3.0 デニール位です。この品種の座繰り糸は優雅な感触とコメントされています(繭の芽 STUDIO 筋誠珠実氏)。優雅な特性が活かされるように煮繭、精練および織り染めの段階で配慮されることが望まれます。

4) 要望に応じた蚕品種の開発

平成 20 年に新蚕糸行政施策にもとづく蚕糸絹業提携事業が開始されてから、新しい商品制作の夢を具現化する蚕品種の要望があります。いくつか事例を紹介しますと、シャンタン向きの玉繭品種、大きめの繭でフラボノイド色素を多く含む品種、細い糸用に三眠蚕の改良、気候風土に適する広食性の品種などです。

提携事業を積極的に支援している私たちは、これらの要望に応じて品種開発を進めております。このような蚕業技術研究所の品種開発への取り組みを最後に紹介して、6 回にわたった本シリーズを終えることといたします。

万能繰糸機の特長と商品開発の取組み

(財)大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所

所 長 清 水 重 人

はじめに

蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業が最終年度に入りました。これまで純国産の特色を出すべく、特徴ある蚕品種を中心にブランド化、オリジナル化等による商品開発の取組みが行われています。蚕糸科学研究所では、かさ高性のある太糸の「ふい絹」や万能繰糸機による超極細生糸の開発等により、生糸の製造工程において差別化、独創性を求めて研究を進めています。最近になって5～6デニールの超極細生糸への需要があることから、万能繰糸機（㈲ハラダと共同開発）の特長の概要と商品開発への取組みについて紹介いたします。

1. 超極細生糸の繰製技術

現在流通している生糸は、その繊度が21d（デニール）、27d、31d、42d等で、このうち21、27dが主体となっており、輸入糸を含めてほとんどHR型などの自動繰糸機により繰製されています。また、原料繭の流通は、国内では春嶺×鐘月、錦秋×鐘和及びぐんま200等が主体で、その繭糸繊度は約3.0dです。これらの繭で21dの生糸を繰製するには、常に約7粒で繰られることが求められます。一方、5～6dの生糸を繰製する場合は、繭糸繊度が約3dの上述の繭では粒付け構成が保てなくなるため、極細1号（蚕業技術研究所開発、繭



図1 万能繰糸機による繰糸状況

糸繊度は約 1.7d) 等繭糸繊度の細い原料繭を使います。極細 1 号を使う場合でも、常に 3 粒で繰られることが必要になります。

現在の HR 自動繰糸機は「繊度感知器」を使って繊度管理をしており、これは狭窄接触による摩擦力で糸の太さを感知しているため、10d 以下の細い生糸ではその摩擦力の小ささから制御が不安定になり、品質的に難がでてきます。

そこで、万能繰糸機では、1 粒の繰糸でも制御可能な独自開発 (有)ハラダ) したロードセルセンサーによる張力感知とし、太さの上下限設定等総て電気信号による制御系にすることで 5 ～ 6d という超極細生糸の繰製が可能となりました。

2. 節の制御技術

生糸の繰製中に発生する節の感知については、HR 自動繰糸機では「集緒器」を使用し、中心の孔 (21d 生糸対応の孔径は約 200 μ) に糸を通し、孔径より大きい節を詰まらせることで小枠が停止します。この場合、さらに節成績を向上させるためには、集緒器の孔径を小さくするしか方法がなく、そうすると作業性が著しく低下するとともに、通過する糸にも大きな摩擦抵抗による負荷がかかります。一方、万能繰糸機では、従来から節検出として使われる「スラブキャッチャー」を組み込みました。スラブキャッチャーは、生糸では通常揚返工程等乾燥した状態の節除去として広く使われていますが、万能繰糸機では繰糸中の湿潤生糸へ対応すべくメーカーの協力を得て改



図 2 制御盤

良を行い組み入れました (有)ハラダ)。従って集緒器と比較し、節感知の精度、許容範囲設定及びメンテナンス等の面で高品位への対応が可能になると共に、糸と非接触による感知機構のため、繰糸張力が遙かに小さくなりました。

3. 超低張力への対応

上述のロードセルセンサーとスラブキャッチャーを開発改良して組み入れることで、繰糸中の繰糸張力は、HR 自動繰糸機の繊度感知器と集緒器の組合せ使用と比較すると 21 デニール生糸繰糸で 1 / 2 以下になります (当所比較試験による)。さらに、繊度感知器では「ケンネルより」が無いと糸が扁平して通過するため感知不能になりますが、ロードセルセンサーでは全く問題ありません。そのため、生糸の抱合に支障のない最低長のケンネルよりですむことから、ケンネルよりによる張力を減少さ

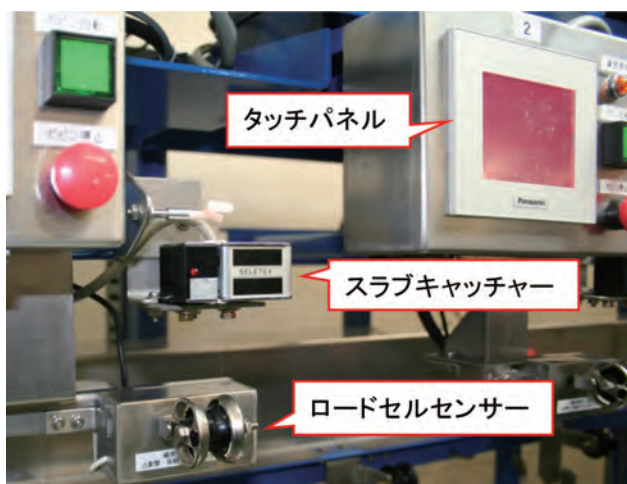


図3 タッチパネル、スラブキャッチャー、ロードセルの各部品

せることが可能です。ケネルよりによる張力は繰糸粒数が少ない程その影響が大きく（当所比較試験による）、超極細生糸繰製には特に大きく影響します。

昭和 30 年代後半から一気に普及した自動繰糸機では、増産を図るため高速回転による能率向上が行われました。そのため、生糸は伸度が低下した「針金生糸」となり、経緯（サシ）の原因となる等大きな問題となりました。そこで最近では、織度感知器が無く低速回転で繰糸する多条繰糸機の生糸への要望が潜在的にあります。その点、万能繰糸機では集緒器がない等機構的に多条繰糸機より低張力化が図られていることから、超低張力繰糸による生糸品質の向上に大きく貢献していると言えます。

4. 高格・高品質生糸の繰製

高格生糸の繰製上最も問題となる管理項目は、昔も今も節と糸むらです。万能繰糸機では、ロードセルセンサーとスラブキャッチャーの信号の入出力は総て制御盤でコ

ントロールされています。ロードセルセンサーからの張力に応じた電気信号は、織度に変換されて表示されます。設定外の繰糸張力を感知した場合は小枠を停止することで、目的とする織度及び糸むらのない生糸の繰製が可能になります。節においても同様に、設定外の節が通過すると小枠が停止します。このように、設定外の糸を小枠に巻き取らないことで目的格に応じた品質管理を行います。このことについては、検定用自動繰糸機と繰糸速度等同条件で 21d 生糸を繰糸し、織度と節成績で比較し万能繰糸機の優位性について確認しております（当所比較試験による）。また、繰製中の織度変化及び節の発生状況は、繰り初めから繰り終わりまで総てのデータをグラフ等で表示すると共に記憶媒体に保存が可能で、パソコンで読み込み EXCEL で確認できます。そういう意味では、織度と節に関しては繰製糸全長がトレーサビリティに対応していると言えます。

5. その他の特徴

その他の特長として、①オプションでボビンや大枠等直繰に対応、②タッチパネルによる操作性の向上、③機械の騒音が小さい、④ボビン乾糸装置の効率化、等があります。一方、織度感知のロードセルセンサーは高感度タイプのため、煮熟度や繰糸温度等の影響を受けます。そこで、現在、環境条件と実織度とのキャリブレーション化について詳細に調査を行っており、マニュアル化を図っています。なお、万能繰糸機

の名前の由来は、①各種織度に対応、②各種形状糸に対応、③直繰に対応、となっていることからきています。

6. 商品開発

万能繰糸機の現在のロードセルセンサーの感知性能範囲は、1粒繰糸から約60dの生糸まで繰製対応になっています。5～6dの超極細生糸は、世界一薄い織物（齋栄織物㈱）や特殊手術用縫合糸等への商品化について進行中です。一方、21d、27d等の流通織度生糸生産については、万能繰糸機による6A格等高格生糸や低張力生糸への要望は各方面からあるのですが、現在台数が5緒型1台のため、生産能力の面に対応

できない状況となっております。現段階では、独自性を持った多品種、小ロットタイプの商品開発に取り組んでいます。

おわりに

純国産商品としての特徴を如何にして出すかということについては、特徴あるオリジナル蚕品種、ブランド蚕品種のもつ特性をできる限り活かして、繰糸・撚糸・精練・染色等の加工・製織製編そして商品へと繋げていくことが必要で、そのための一貫した協力体制が重要と思います。そのためにもまず原料繭の特徴を活かしたままの生糸繰製技術について今後とも研究開発を続けていきたいと考えています。

博物館を運営してシルクの文化を考える

(耕織図から蚕織錦絵など女性の着物の変遷を中心にして)

駒ヶ根シルクミュージアム

名誉館長 岩下 嘉光

駒ヶ根シルクミュージアムは、2002 年 4 月 25 日に開館して 11 年を経ました。その間、衣の文化の変遷を主題に 35 回の特別展を開催、図録を発行してきました。その一部の概要を記します。

日本人独自の庶民の着物は、飛鳥・奈良時代までの大陸様式から脱して平安時代中期（11 世紀）頃に庶民の中から小袖が生まれました。男女の区別なく袖口の小さな衣を小袖と言うので、江戸時代の中、後期にかけて次第に長くなった振袖も小袖の仲間に入り、現代の着物の原型です。初めは袖が短く着物丈も短いショートスカートで労働し易い衣でした。これが応仁の乱が終わった 1477 年頃、武士が帰国して一時の

平和が保たれた頃に、徐々に袖と裾が伸びました。信貴山縁起図や病草紙（平安後期の 12 世紀）に見るように小袖は殆どが無地か藍染程度で下着は皮膚病、婦人病予防のために茜染とするのが一般的でした。

そして外出着は袴を脱ぎ、小袖の裾が伸びてワンピースとなると、腰ひもが見えるので、きれいに編んだ組紐等を用いるようになりました。しかも日本人の美意識は徐々に文様入りのお化粧を始めます。

桃山時代の典型的な小袖姿は浅井長政夫人のお市の方の絵姿です。



図 1 病草紙（平安後期 12 世紀）



図 2 小袖を着用した浅井長政夫人
（桃山時代 1570 年頃）



図3 淀君の小袖の復元、中央は発見された古布
(京都丸紅 KK)

武家階級の女性の服装ですが小袖の上に羽織る打掛けを、袖を通さずに腰に巻き付け袋帯を袖を通して縛る腰巻姿です。次は丸紅商事が400年の眠りを覚まして21世紀に復元した、秀吉の愛妾淀君の小袖があります。退色した絹の古布が発見され、添え書きに「伏見殿御あつらい」とあることから淀君の小袖の一部と考え、現代の名工5人で4年の歳月をかけ、美しくみやびな「辻が花染」の再現に成功しました。この小袖を纏った美しく朧たけた淀君を彷彿させてくれる「淀君の小袖」が、当館第1回特別展として展示できたのですから大変な好評を博しました。

しかし復元の生糸は小石丸ですが、小石丸は淀君から約100年後の江戸時代に育成された品種です。また当時の上質な絹織物は白糸が用いられていたもので、恐らく本物は白糸で織られていたと考えられます。繭の塩漬け、染料など当時に習い、多大な経費を要したということですから、遺物の復元の難しさがうかがわれます。また「辻が花染」は慶長8年(1608)の日葡辞典によると「赤やその他の色の木の葉模様や

紋様で彩色してある帷子^{かたびら}をいう」とあるので、夏着の衣料に用いられたと思われます。しかし現代の辻が花染はしぼり染めを主体とした冬の着物に仕上げられており、昔と違ってきていることもうかがえます。「淀君の小袖」と共に江戸期の小袖、内掛けの名品を十数点展示しました。そのなかに江戸後期の島原の花魁が着た、あでやかで、しぼの高い縮緬の絞り染6種の文様と4色に染め分けた裂地のパッチ仕上げの美しい振袖がありました。

この作品は一見廃物利用に見せかけて、実は手間のかかった高価な着物です。当時、幕府の度重なる庶民に対する奢侈禁止令が発せられ、この政策に抵抗する遊里の人々の屈折した心理がうかがわれる資料とも言える作品でした。和服文化は時の権力者による様々な制約に抵抗しながら庶民の美意識を高度に組み込んだことがわかり、現在の和服のルーツを探ると共に美術品とも言



図4 紅浅葱紫縮緬地文寄裂振袖、江戸後期
1810年以降(京都丸紅所蔵)



図5 婦女遊楽松浦屏風（大和文華館所蔵）

える江戸期の雅と奥深いシルクの文化を再認識しました。

第2回特別展として「世界のカイコと絹糸虫類の切手展」を開催しました。その図録の表紙とした熱海MOA美術館所蔵の「機織之図」屏風絵の切手で、狩野派の絵師による桃山末期から江戸初期ごろの作品です。糸を繰り、機織りをする4人の若い女性の小袖姿が描かれ、中央に立つ女性は短い中振袖の白地に赤い太い横縞の小袖姿は、腰に細紐をぐるぐる巻いただけで、まだ帯はありません。

次に江戸初期の風俗を描いた大和文華館蔵の松浦屏風・婦女遊楽図は、幅の狭い帯をしめた舞妓等が描かれ、既に帯がお洒落

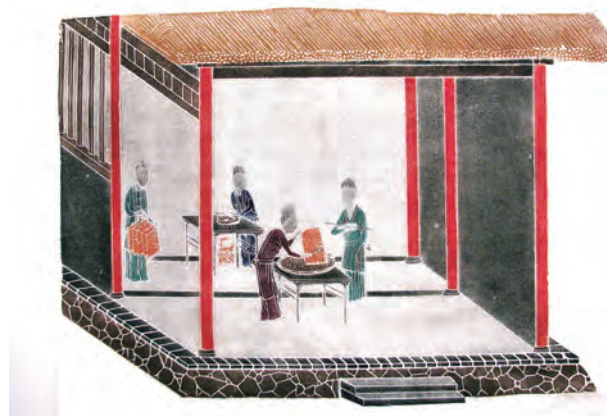


図6 蚕織石刻図（駒ヶ根シルクミュージアム所蔵）



図7 佩文齋耕織図（清代1696、焦秉貞画）

の一つとして出回り始めたことがうかがわれます。さらに華麗な友禅染や長く幅広い帯は江戸中期に入り平和で経済的に安定した町民文化が花開く時期まで待たねばなりません。

第4回特別展は「蚕織錦絵」、12回に「描かれた蚕織」を開催しました。蚕織図は中国の南宋時代（1210）杭州の長官であった楼璣^{ろうしゅう}が、時の皇帝高宗に「耕織図」（農耕21幅、蚕織24幅）を献上したのが最初と言われています。

文化大革命終焉の翌年、1978年に中国訪問の折にその蚕織石刻図の一部を持ち帰り、博物館に展示しました。

中国では多くの粉本^{ふんぽん}がありますが、著名な一つに清朝時代（1696）康熙帝は清朝時代の農蚕図絵の上段に皇帝の七言詩、図中に楼璣の五言詩を入れた「佩文齋耕織図」を焦秉貞に描かせました。中国では壁紙や

陶器の図柄に用いられ、さらにヨーロッパに移入されて中国風俗画として、所謂シノアズリー（中国趣味）を加速させたと言われています。この図詩は 1928 年に日本で復刊されました。日本では狩野永納(1676)による耕織図（天野 1975）が狩野家世蔵本としてあり、この図を手本にして日本風の蚕織図として橘守国（1743）の「絵本直指宝・家織婦之図」、続いて 1786 年に勝川春草、北尾重政の絵本「宝能縷、かいこやしない草」が発刊され、これらの絵本を参考に 1795 ～ 1800 年頃には喜多川歌麿により 12 枚組の「女織蚕手業草」が描かれ蚕織図が注目を集めました。江戸期も元禄時代に入ると経済的な上昇期に至り庶民生活も安定して衣裳に絹を求めるようになります。



図 8 女織蚕手業草、喜多川歌麿画（1795 ～ 1800）
（松本浮世絵博物館所蔵）

1688 年に宮崎友禅斎の創案による世界に類例のない華麗な友禅染織が生みだされました。この着物に拍車をかけたのが歌舞伎の姿絵を描いた浮世絵です。女形の上村吉弥の広幅の帯をしめ後ろで唐犬の耳がたれるように二つ折にして長く垂らした「吉



図 9 見返り美人、菱川師直画(1388 ～ 1704 元禄前期)
（東京国立博物館所蔵）

弥結び」が描かれ（菱川師直画、見返り美人など）たちまち若い娘たちに流行しました（井原西鶴「好色一代女」1686）。かくして現代の幅広の帯のルーツとなりました。

この様な町人の贅沢を幕府が阻止するために贅沢禁止令が再三出されています。庶民はこの禁止令に触れない範囲で美を追求し、特に 1750 年代宝暦年間頃から小袖は縞柄、小紋など地味で手の込んだ文様が流行し、裾模様も江戸袷や裏裾模様となり、茶、紺、鼠系統の地味な色合いのものが流行の中心となり「目立たないお洒落」「粋な美意識」が生まれ、これが現代の留袖の江戸小紋などのルーツとなりました。

大正、昭和時代には、生糸は外貨獲得の重要な農産資源であり、輸出生糸として不



図 10 伊奈・三井静子さんの万博派遣時の絹の着物
(駒ヶ根シルクミュージアム所蔵)

合格な国用生糸が素材の銘仙などが、庶民の最高な贅沢でした。日米関係の政治的悪化が進行する昭和 14, 15 年にサンフランシスコでは平和交流を求める万国博覧会が開催され、日本は新たに開発した多条繰糸機を出展、片倉とグンゼ製糸から 2 名の女性が派遣されました。2006 年に派遣女性三井・伊奈静子さんの娘、カルフォルニア州立大学の Ina 教授が来館、静子さんの派米時の着物と両親の戦時下の強制収容の苦悩のドキュメント「From a silk cocoon」の寄贈を受け、第 14 回特別展「愛のかけ橋サンフランシスコ・ゴールデンゲイト万博と日米生糸貿易」と Ina 教授との対話集会を開催、生糸輸出に関わる国際交流と平和問題にまで情報を拡張することが出来ました。

女性の和装を中心にして、社会生活の変化に伴う変遷の大要を記してきました。人間は衣服を身に纏わなければ生きていけな

い生物ですから、古代から動物、植物繊維など自然の素材を用い、自然と一体となって服飾文化が展開されてきました。現代は化学繊維が主体となり種類は豊富で豊かではありますが、其の素材は有限であり、製品の多くは自然に還元されません。文化は人類の生活を豊かにすると共に幸せをもたらすことであり、生命の安全をもたらすことでなければなりません。

蚕糸学の研究と技術的開発は世界に誇る水準にまで到達しました。この学問と技術は日本の蚕糸産業の衰退と共にすべきではなく、科学立国日本としては、絹は貴重な天然繊維資源として、また先人の培ってきた絹の文化を維持、伝承する責任を課されているのではないのでしょうか。



図 11 From a silk cocoon
(produced by Satsuki INA 2006)

平成 25 年度協議会事業の協議と承認

蚕糸・絹業連絡協議会全国連絡協議会

去る 4 月 11 日、「蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会」（以下協議会）の平成 25 年度（第 1 回）総会が東京有楽町蚕糸会館で開催された。

当日は、全 56 グループのうち、協議会規約の総会定足数である、会員過半数を満たす 46 グループが出席（出席 21 グループ、委任状 25 グループ）した。

冒頭、協議会の代表幹事である株式会社マルシバの木下幸太郎社長より開会の辞が述べられ、次いで財団法人大日本蚕糸会 草野洋一常務理事より「協議会発足 1 年を迎え、今年度は一般消費者において純国産絹についての一層の認知・理解を深め、消費に繋がるような活動に期待している。またそのために会員各位には更なるご協力をお願いすることになるが、蚕糸・絹業提携支援センターとしても可能な限りの支援をしていきたい」との挨拶があった。

総会の議事に入り、1 号議案の平成 24 年度事業報告では、「純国産絹製品 PR・販売促進強化戦略検討会議ならびにワーキング・グループ会議」の報告がなされ、協議会設立後初の合同催事となった銀座三越「純国産宝絹展」について報告された。木下代表幹事からは「当日は大雪であったにも関わらず、多くの方にお越しいただいた。また招待授業を行った銀座の泰明小学校の児童が、会場で展示されていた生きた蚕に



大変な興味を示したことに感銘を覚えた。今後も更に日本の絹の良さを理解してもらえよう、純国産『宝絹』のブランディングを進めていきたい」との感想を述べた。

次いで、平成 24 年度収支決算報告が行われ、同決算報告書が協議会監事による会計監査を終えたことも報告された。

その後、平成 25 年度事業計画としては、下記の事業が検討・承認された。

25 年度も前年度同様に「純国産絹製品 PR・販売促進強化戦略検討会」にさらなる純国産絹の消費発展のための戦略を諮ることが提案され、検討会の開催が議決された。また、同事業の一環として一般消費者向け PR ツアー〈キヌタビ〉の実施を予定。キヌタビでは、群馬県富岡製糸場、碓氷製糸農業協同組合の視察や養蚕関係の研究所として茨城県阿見町の蚕業技術研究所、純国産絹製品の生産現場として茨城県結城市での結城紬の視察等を検討している。

また、純国産絹製品の PR・販売促進の

ため、戦略的な純国産絹製品展示会の全国規模の開催（首都圏や関西での展示会）、各提携グループが行う展示会への支援事業の実施、純国産絹製品の販売促進に直結する販売手法の一つとして、平成 24 年度に立ち上げたホームページの更新を随時行い、各提携グループとリンクした魅力あるものにしていく。また、各提携グループの商品等を掲載したブランドブック作成や各種展示会への展示協力を行うことなどが議決された。

平成 25 年度役員名簿（以下、敬称略）

幹 事

白繭細 1 号プロジェクト開発チーム他

2 グループ

株式会社マルシバ

代表取締役社長 木下幸太郎

上田蚕種の会

上田蚕種株式会社

代表取締役社長 手塚本衛

碓氷製糸シルク工房の会他 1 グループ

碓氷製糸農業協同組合

代表理事組合長 高村育也

西陣純国産絹振興会

西陣織工業組合

理事長 渡邊隆夫

純日本の絹文化協会「松岡姫」グループ

株式会社伊と幸

代表取締役社長 伊藤公一

ふくしまみらいシルクの会

西川産業株式会社

代表取締役社長 西川康行

各議案検討後の会員による意見交換の場では、提携グループ毎に行う純国産絹製品展示会開催についての方針や、協議会ホームページの情報拡充法などについて活発に討議がなされた。

なお、総会終了後早速平成 25 年度第 1 回役員会・戦略検討会議合同会議が開かれ、今年度の戦略的取り組みの推進について役員およびオブザーバーの活発な意見交換と今後の活動方針の確認が行われた。

日本絹文化振興会

株式会社丸上

代表取締役社長 上達征次

監 事

千總純国産絹製品販売・商品開発グループ

株式会社千總友仙工場

代表取締役社長 俵武司

絹の会ぐんま 200 プロジェクト

西尾呉服店

代表取締役社長 西尾仁志



シルク遺産を訪ねて⑨

東京農工大学科学博物館

東京産業考古学会

副会長 平井 東 幸

東京農工大学科学博物館は、ＪＲ中央線の東小金井駅から徒歩１０分、キャンパスの一角にある。３階建てで昭和２７年、当時の大学本館を改装して繊維博物館としてオープンした。大学付属の博物館として歴史が古いことも特長だ。平成２０年に、繊維だけでなく全学的な施設とするため科学博物館に改称している。その後、昭和１２年竣工のこの建物は耐震工事を含めて大幅な改装が行われて、展示も一新されて平成２４年１０月に新装開館した。

シルクを含めた繊維に関しては、同館の発祥が、明治１９年（１８８６年）の農商務

省蚕病試験場の「参考品陳列場」にさかのぼるだけに、機械・工具・用具・標本・製品等多種多様にわたる常設展示が整備されていて、まことに見応えがある。

養蚕・製糸関係の主な展示物としては、①各種の繰糸機や撚糸機、養蚕の古い各種用具、②織機類、③繭や糸の標本（繭は約１００種）、④輸出用生糸の商標ラベル、⑤計器類、⑥梱包された生糸等と充実している。機械では、例えば、大正１４年完成の御法川式多条繰糸機が貴重なものの一つであろう。

このほか、養蚕・製糸・織布関係の錦絵



写真１ 東京農工大学科学博物館



写真2 御法川式繰糸機

のコレクションが一室を当てて展示されている。江戸から明治にかけて制作されたもので、美術品としてもまことに素晴らしい。

これらの展示資料の詳細な説明は同館のホームページや Facebook 上で見られる。また、同館のパンフレット『養蚕・繊維そして科学技術へ』（10p）は、なかなか充実した資料である。

同館では、以上のほかに、フランスのシャルドンネ伯が18世紀末に製造した人絹が第1展示場の正面にガラスケース入りで展示されている。これは同伯がブサンソで製造した世界初のセルロース繊維であり、世界的にも珍しい貴重な文化財であり、化学遺産である。同館の目玉である。

シルク関係ではないが、ガラ紡績機械が動態展示されている。名古屋の産業技術記念館ではレプリカの動態展示があるが、同館ではオリジナルであり、繊維産業遺産として貴重なものの一つである。

なお、同館では耐震・改装する際に、展示コンセプトの大幅な見直しを行い、限ら



写真3 シャルドンネ人絹

れたスペースでより有効な展示を行うため、それまでに収集されてきた繊維機械類の一部を明治村博物館や韓国大邱の繊維博物館等に移譲した経緯がある。これらの資料がそれぞれの施設で大事に収蔵・展示されることを期待したい。

終わりに、同館を訪問されるときには、以上のシルクおよび繊維以外にも同大学の歴史と現状における教育・研究等の常設展示があるし、また、過去に見学された方も、この新装・整備なった科学博物館を改めて見学されることをお勧めしておきたい。

（写真2,3は、国立大学法人東京農工大学科学博物館の提供）

■東京農工大学科学博物館

開館日：火曜日～土曜日

開館時間：午前10時～午後5時

所在地：東京都小金井市中町2-24-16

Tel：042-388-7163

アクセス：JR中央線 東小金井駅下車

南口徒歩10分

入館料：無料

イベント情報

(財)大日本蚕糸会・ジャパンシルクセンターからのお知らせ

イベント名	企画・展示内容	開催日(期間)	場所・主催者等
○染織工房 鳴瀬 「手描き友禅の世界」	染織工房 鳴瀬は、手描き友禅染め技法を基本として、お洒落着と染色アートを製作しています。 きもの、帯、半襟、ストール、ネクタイ、染額を出品展示します。	・会期 平成25年5月8日 (水)～24日(金) 開催時間 10:00～18:00 最終日は16:00まで	・主催:ジャパンシルクセンター ・会場 ジャパンシルクセンター 東京・有楽町 蚕糸会館 1階 Tel03-3215-1212
○純国産絹製品展 「我が国のきもの中心 京都の皆さんに」	きもの文化の中心都市・京都において、繭、生糸から織、染まで全て国産である「純国産絹製品」の展示会を開催します。 出展企業は純国産絹製品の製造販売を行う蚕糸・絹業提携グループ又は「純国産絹マーク」の使用許諾者であり、本展示会は純国産絹の良さを消費者にアピールするものですが、併せて小売専門店、絹織物問屋等の関係者への提案を目的としております。 また、世界遺産の登録を目指す「富岡製糸場と絹遺産」を併設展示いたします。	・会期 平成25年6月1日 (土)～5日(水) 開催時間 6月1日10時から17時まで 6月2日～4日は9時から17時まで 最終日は15時まで	・主催:大日本蚕糸会 ・会場 京都産業会館4階展示場 京都市下京区四条烏丸室町東入る 問合せ先 Tel03-3214-1691
○騒人 絹の花嫁 ～ウェディングドレス展～	「騒人 絹の花嫁」は、製織から縫製まで全て国産です。他にない質感やオリジナリティを求める花嫁に最もふさわしいシルクドレスを展示します。	・会期 平成25年6月3日 (月)～14日(金) 開催時間 10:00～18:00 最終日は16:00まで	・主催:ジャパンシルクセンター ・会場 ジャパンシルクセンター 東京・有楽町 蚕糸会館 1階 Tel03-3215-1212
○第24回絹まつり	日頃から絹製品に造詣の深いシルクファンのご愛顧に応じて展示販売する年2回の夏のイベントです。「ディリー・シルク(絹を日常に)！」をコンセプトに、夏向きのブラウス、肌着、スカーフ、ストール、ソックス、石鹸などを提供いたします。	・会期 平成25年7月1日 (月)～4日(木) 開催時間 10:00～18:30 最終日は17:00まで	・主催:ジャパンシルクセンター ・会場 ジャパンシルクセンター 東京・有楽町 蚕糸会館 1階 Tel03-3215-1212

イベント名	企画・展示内容	開催日(期間)	場所・主催者等
○夢を紡いだシルク ー「蚕の国」群馬と 「シルクの街」横浜ー	群馬県立日本絹の里との提携記念イベント シルク博物館では、養蚕・製糸の歴史と現在、富岡製糸場と絹産業遺産群の世界遺産登録への取り組み、さらには生糸の輸出港であった横浜のシルクの栄光を追うことで、群馬と横浜のつながりの深さを展示や講演などで紹介します。 本展では、近代日本の発展を支えてきた養蚕業を振り返るとともに、その現在を紹介することにより、これからの絹の需要増進に私たちはどのように寄与することができるか、伝統の養蚕業についてあらためて考える機会を提供することを目的とします。	・会期 平成25年4月27日(土)～6月9日(日) 休館日:月曜日(但し、4月29日と5月6日開館、4月30日と5月7日休館) 入館料 一般700円 65才以上300円 高・大学生200円 小・中学生100円 *団体割引有り	・主催:シルク博物館 ・会場 シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地 シルクセンター2階 TEL045-641-0841
日本絹の里第62回 特別展 絹とアジアの民族衣装 ～蚕からの贈り物～	日本絹の里15周年記念事業 絹や木綿、麻、ウールなどの天然素材は、長い歴史と気候風土の影響を受けながら、地域に暮らす民族の間で発達してきました。現代では、日常着として長く愛用してきた民族もあり、身近な天然素材としての一面もあります。 本展では、蚕品種による絹糸の特質、織りや染めの技法等の視点から民族衣装をとらえ、絹を生み出すカイコと共に歩んできた多様なアジアの民族衣装の紹介を通じ、人類の歴史における絹文化の重要性と親近な存在としての絹を考察していきます。 また、絹・未来へと題して大竹夏紀展を同時開催します。染色アーティスト大竹夏紀が、シルク素材にろうけつ染めの伝統技法を用いて、現代の少女画を鮮やかに描いた作品を展示します。	・会期 平成25年4月27日(土)～6月3日(月) 休館日:月曜日 入館料 一般200円 高・大学生100円 中学生以下無料 *団体割引有り *4月29日入館は無料	・主催:群馬県立日本絹の里 ・会場 日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 TEL027-360-6300

絹の未来への新たな風

シルクシンポジウム 2013

参加費
無料
事前登録不要

平成25年
開催日 **5月30日(木)**
13:00~17:00

場所 **蚕糸会館 6階**
東京都千代田区有楽町1-9-4



■共催：日本シルク学会、(財)大日本蚕糸会

プログラム

1. 福島におけるシルク産業への復興支援とその展開
福島県ハイテクプラザ福島技術支援センター
所長 三浦 文明 氏
2. 国産繭の特徴を活かす糸づくり
株式会社宮坂製糸所
専務取締役 高橋 耕一 氏
3. 養蚕関連の技術を導入した新たな地域活性化
事業と高齢者労働力の活用
公益社団法人浦添市シルバー人材センター
理事長 積 洋一 氏
4. 韓国における桑果実の生産とその利用
韓国 国立農業科学院 農業生物部 蚕桑資源研究室
室長 Sung, Gyoo Byung 博士
5. シルク構造解析を基にしたシルク人工血管の開発
東京農工大学大学院 工学研究院 生命機能科学部門
准教授 中澤 靖元 博士

パネルディスカッション
「新しい風の産業化への道筋」

コーディネーター：瓜田 章二 博士

お問合せ 日本シルク学会第60回記念大会実行委員会事務局 担当：花之内

〒169-0073 東京都新宿区百人町3-25-1 蚕糸科学研究所内 Tel: 03-3368-4891 Fax: 03-3362-6210 E-mail: 60taikai@silk.or.jp

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧

平成 25 年 3 月 14 日現在

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
1	株式会社 千總	後染反物（振袖、訪問着、付下、色無地、黒留袖、喪服）、 胴裏
2	株式会社 織匠田歌	先染反物、後染帯地
4	株式会社 丸上	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）、後染帯地
5	株式会社 坂本屋	後染反物（色無地）、胴裏（灰汁浸け加工）
6	有限会社 平原	後染反物（色無地、黒紋付）
7	株式会社 信盛堂	後染反物（色無地、黒紋付）
8	株式会社 きものアイ	後染反物（色無地）
9	株式会社 上庵	後染反物（色無地、黒紋付）
10	有限会社 樹（いづき）	後染反物（色無地、黒紋付）
11	株式会社 銀座もとじ	後染反物（作家作品）、後染帯地、先染反物（大島紬、結 城紬、御召、作家作品）、先染帯地（織九寸帯、織角帯、 作家作品）、白生地、和装小物（帯締、羽織紐）、八掛、 胴裏
12	河瀬満織物 株式会社	先染帯地
13	有限会社 織匠小平	先染帯地
15	株式会社 結華	後染反物（色無地、黒紋付）
16	株式会社 絹回廊	後染反物（色無地）
17	有限会社 琴路屋	後染反物（色無地、黒紋付）
18	有限会社 大善屋呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地
19	丸善本店	後染反物（色無地、黒紋付）
20	呉服のささき	後染反物（色無地、黒紋付）
21	日本蚕糸絹業開発協同組合	裏地（胴裏（ぐんま羽二重、ぐんまレピア、灰汁浸加工、 トルマリン加工）、八掛、比翼地）、長襦袢地、後染反物 （作家作品、紋付地）、白生地（世紀二一）、 後染帯地（（冬物・夏物）：うるし糸が 5 % を超えるもの）、 寝衣（うぶ着、おくるみ）、和装小物（袱紗）
22	宮階織物 株式会社	先染反物、後染反物
23	21 世紀の絹を考える会	後染反物（色無地、訪問着）、先染帯地（袋帯（草木染、 唐織））
24	碓氷製糸農業協同組合	白生地、マフラー
25	丸幸織物 有限会社	白生地
26	織匠 万勝	先染帯地（袋帯、名古屋帯）、先染反物（御召類）、 後染反物、先染帯地（袋帯：金銀糸が 5 % を超えるもの）

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
27	有限会社 織道楽塩野屋	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウォーマー、腹巻、手袋、靴下））
28	株式会社 丸万中尾	後染反物（江戸小紋、友禅、色無地）、後染帯地
29	株式会社 むらかね	後染反物（色無地、黒紋付）
30	株式会社 高島屋	後染反物（振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖）、白生地（長襦袢地、胴裏）、ニット（靴下）
31	株式会社 さが美	後染反物（黒紋付（冬用・夏用）、色無地）
32	有限会社 まるけい	後染反物（色無地、黒紋付）
33	有限会社 特選呉服専門店後藤	後染反物（色無地、黒紋付）
34	株式会社 小いけ	後染反物（色無地、黒紋付、小紋）
35	株式会社 伊と幸	後染反物（色無地）、後染帯地、白生地（表地）、胴裏
36	株式会社 四季のきもの おおにし	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地
37	株式会社 和幸	後染反物（色無地、黒紋付）
38	株式会社 榎屋高尾	先染帯地（袋帯）
39	株式会社 つるや	後染反物（色無地、黒紋付）
40	株式会社 越後屋	後染反物（色無地、黒紋付）
41	株式会社 小倉商店	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）、白生地（結城紬）
42	染織家 柳崇	先染反物、先染帯地
43	染織家 児玉京子	先染反物
44	草木染工房 山村	先染反物、先染帯地、ストール
45	手織り よおん	先染反物、先染帯地
46	祝嶺染織研究所	先染反物、先染帯地
47	株式会社 龍工房	帯締
48	からん工房	先染反物（紋紬、緋）、先染帯地
49	たわた工房	先染反物、先染帯地
50	山音 株式会社	後染反物（色無地（変三越、駒紬））
51	やまと 株式会社	後染反物
53	桜井 株式会社	先染帯地
54	有栖川織物 有限会社	先染帯地
55	太田和 株式会社	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）
56	株式会社 岩田	先染帯地
57	有限会社 神原呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）
58	浅山織物 株式会社	先染帯地
59	株式会社 やまと	先染帯地、先染帯地（金銀糸が5%を超えるもの）
60	田中種 株式会社	後染反物（小紋（変一越、紋意匠）、黒紋付、加賀友禅、色無地）、後染帯地（九寸名古屋帯）、ニット（靴下）

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
61	株式会社 京扇	後染反物（色無地）、胴裏（パールトーン加工）
62	株式会社 なごみや	後染反物（色無地、黒紋付）
63	丸池藤井 株式会社	後染反物（色無地）、八掛
64	久保商事 株式会社	和装小物（帯揚げ、半衿）
65	加賀グンゼ 株式会社	胴裏
66	千切屋 株式会社	後染反物（訪問着、付下）、後染帯地
67	荒川 株式会社	和装小物（帯締、帯揚げ）
68	第一衣料 株式会社	後染反物（色無地）
69	株式会社 紅輪	後染反物（色無地）
70	装いの道 株式会社	白生地（帯地、表地）、胴裏（トルマリン加工、 灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸）
71	株式会社 高橋屋	胴裏（灰汁浸加工）
72	おお又 株式会社	胴裏（灰汁浸加工）
73	株式会社 天野屋呉服店	胴裏（ぐんま 200（灰汁浸加工））、白生地
74	株式会社 きもの潮見	胴裏（パールトーン加工）
75	株式会社 とみひろ	胴裏（酵素精練）
76	株式会社 細安	胴裏（酵素精練）
77	京和きもの 株式会社	胴裏（酵素精練）
78	株式会社 まるため	胴裏（トルマリン加工、パーリー加工）
79	株式会社 小川屋	胴裏（トルマリン加工、灰汁浸加工）
80	株式会社 エムラ	胴裏（酵素精練）
81	株式会社 荒井呉服店	胴裏（酵素精練）
82	株式会社 牛島屋	胴裏（酵素精練）、後染反物（小紋）
83	株式会社 谷呉服店	胴裏（酵素精練）
84	株式会社 登美屋	胴裏（パールトーン加工）
85	株式会社 川平屋	胴裏（パールトーン加工）、 後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
86	丸専第一衣料 株式会社（丸専きもの）	胴裏（パールトーン加工）
87	株式会社 大丸松坂屋百貨店	裏地（胴裏、比翼地（振袖用））、長襦袢地
88	西陣織工業組合	マフラー
89	株式会社 あきやま	先染反物、洋装品（ショール、マフラー）
90	藤井紋 株式会社	後染反物（色無地）
95	有限会社 カシワギ	寝具寝装品（冬用・夏用・合用薄絹ふとん、 ブランケット）、洋装品（スーツ地、ネクタイ、服飾品 （スカーフ、ストール、シャツ））
96	株式会社 北尾織物匠	先染帯地（袋帯、名古屋帯）

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
97	株式会社 平田組紐	帯締、帯締（金銀糸が5%を超えるもの）、羽織紐（男物、女物）
98	株式会社 菱健	後染反物（色無地）
99	西野 株式会社	帯締、帯締（金銀糸が5%を超えるもの）
100	京商 株式会社	後染反物（色無地、黒紋付）
101	株式会社 猪井	後染反物
102	株式会社 たちばな	後染反物
103	株式会社 丸富美	後染反物（色無地）
104	株式会社 絹もの屋まつなが	後染反物（色無地）
105	株式会社 山正山崎	後染反物（色無地、小紋（変一越、紋意匠））
106	有限会社 こくぶん呉服店	後染反物（色無地）
107	株式会社 染織近藤	後染反物（色無地、小紋（変一越、紋意匠））
108	株式会社 宮川呉服店	後染反物（色無地、付下）
109	株式会社 和らいふ	後染反物（色無地）
110	有限会社 きものいなもと	後染反物（色無地）
111	株式会社 世きね	後染反物
112	株式会社 西陣まいづる	先染帯地（袋帯（金銀糸が5%を超えるもの）、 紹九寸帯（金銀糸が5%を超えるもの））
113	奥順 株式会社	先染反物（結城紬）、先染帯地（結城紬）
114	りょうぜん天蚕の会	ショール（天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド）
115	有限会社 金屋	後染反物（色無地）
116	株式会社 鶴屋百貨店	胴裏（酵素精練）、先染反物（結城紬）
117	黄八丈めゆ工房	先染反物（黄八丈）
118	京屋呉服店	後染反物（色無地）
119	合資会社 車屋呉服店	後染反物（色無地、江戸小紋）
120	宮崎 株式会社	結城紬
121	有限会社 内海呉服店きもの千歳屋	白生地
122	長島繊維 株式会社	後染反物（色無地、小紋、付下、訪問着）、後染帯地
123	株式会社 しょう美	後染反物（色無地）
124	合資会社 治田呉服店	後染反物（色無地）
125	株式会社 丸十	後染反物（小紋）
126	株式会社 竹田嘉兵衛商店	胴裏（酵素精練）
127	有限会社 樋口屋京染店	白生地（表地用（紋意匠））
128	大門屋	白生地（牛首紬）、後染帯地（牛首紬）
129	株式会社 加藤萬	和装小物（帯揚げ、半衿）
130	株式会社 しゃらく	後染反物（小紋）

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
131	合資会社 山中商店	後染反物（小紋）
132	きもの処 あだち	後染反物（小紋）
133	西川産業 株式会社	寝具寝装品（掛布団）
134	繭工房 華美	寝衣（長肌着、短肌着）
135	株式会社 青山みとも	胴裏（酵素精練）
136	株式会社 和想	後染反物（小紋）
137	株式会社 高島屋呉服店	後染反物（小紋）
138	富岡シルクブランド協議会	ネクタイ、褌
139	株式会社 丸年呉服店	後染反物（小紋）
140	株式会社 染織館	後染反物（小紋）
141	株式会社 京ろまん	後染反物（小紋）
142	五嶋 株式会社	帯締
143	株式会社 わふくや	長襦袢地
144	株式会社 布屋呉服店	胴裏（トルマリン加工）、後染反物（小紋）
145	有限会社 明石屋	後染反物（色無地）、後染帯地
146	宮井 株式会社	風呂敷
147	株式会社 ナカノ	後染反物（小紋（変一越、紋意匠）、加賀友禅）
148	株式会社 芦田呉服店	後染反物（色無地、小紋（変一越、紋意匠））
149	株式会社 甲斐絹座	ネクタイ、服飾品（スカーフ、ストール、トランクス）、パジャマ
150	有限会社 さいとう呉服店	後染反物（色無地、付下）
151	株式会社 西松屋	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
152	株式会社 西尾呉服店	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
153	勝山織物 株式会社	先染帯地（金銀糸が5%を超えるもの）
154	有限会社 石川	後染反物（型友禅、羽二重色無地）、先染反物（ジャガード織）
155	東朋 株式会社	ストール
156	那覇伝統織物事業協同組合	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	株式会社 ふじや	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
158	きものおかだ	後染反物（小紋）
159	株式会社 J S	寝具寝装品（ふとん、ふとんカバー）、洋装品（スーツ地、コート地、スカート地、服飾品（スカーフ、ストール、シャツ））
160	株式会社 マルシバ	裏地（胴裏）、和装小物（袱紗）
161	株式会社 みつわ	後染反物（小紋）
162	福純織物株式会社	先染帯地（本袋男帯、八寸名古屋帯）
163	株式会社 大谷屋	白生地(表地)

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
164	株式会社 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	白生地(表地)
165	株式会社 染織こうげい	白生地(表地)
166	近江真綿振興会	寝具寝装品 (布団、膝かけ)
167	株式会社 にしむら	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
168	有限会社 きものおおにし	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
169	株式会社 コノエ	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
170	株式会社 つたや	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
171	株式会社 京呉服小糸伸輔の店	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
172	株式会社 マエノ	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
173	株式会社 本きもの松葉	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
174	有限会社 やまだ呉服店	白生地 (縮緬)
175	株式会社 呉服のながいけ	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
176	株式会社 京呉服平田	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
177	株式会社 布四季庵ヨネオリ	先染反物 (置賜紬)、ストール
178	奄美島絹推進協議会	先染反物 (大島紬)、先染帯地 (大島紬)
179	株式会社 宮坂製糸所	先染帯地 (名古屋帯)
180	有限会社 シンセイ	ニット (腹巻、靴下)

蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-22-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園/バラ園内)	027-231-9875
織物参考館 “紫” (ゆかり)	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 ((財) 日本きもの文化協会)	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鍵水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109-1	0532-52-5265
川島織物セルコン、織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静海市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
絹の白生地資料館	604-8176	京都府京都市中京区御池通室町東入る竜池町 448-2 伊と幸ビル	075-254-5884
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町大家市場 117	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5-1	0287-36-0949
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619-1	055-269-3399

名 称	〒	住 所	電 話
日本司法博物館（松本歴史の里）	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1	0574-28-1110
その他関連施設			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設（結城市伝統工芸館）	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「椽」（つるばみ）	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344-1235	027-340-6060
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名民家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2（大杉公園隣り）	042-761-7118
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号（上田城跡公園内）	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館（織の文化館）	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房（織りの資料館）	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織元田勇（田勇機業株式会社）	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp/>

【蚕糸絹業関係団体】

(財) 大日本蚕糸会
(財) 大日本蚕糸会 シェパードシルクセンター
(財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
京都和装産業振興財団
(財) 伝統的工芸品産業振興協会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://www.mawata.or.jp/>
<http://www.tanko.or.jp/>
<http://www.nishijin.or.jp/>
<http://www.tafs.or.jp/>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp/>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougei.or.jp/>

【大学・試験研究機関】

(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科
<http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan/>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科
<http://www.tuat.ac.jp/~seimei/>
(国) 京都工芸繊維大学工芸学部応用生物学課程
<http://www.bio.kit.ac.jp/>
(国) 京都工芸繊維大学
<http://www.kit.ac.jp/>
(国) 信州大学繊維学部
<http://www.tex.shinshu-u.ac.jp/>
(国) 名古屋大学農学部
<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学講座
http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l_in_bunshi_seibuts.html
(国) 九州大学大学院遺伝育種学講座蚕学研究室
<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/agpm/sangaku/>
(国) 九州大学大学院遺伝子資源工学専攻
http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new_lab/index.html
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース
<http://www.news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/departement/bio/biofunc/index.html>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科
<http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(独) 農業生物資源研究所
<http://www.nias.affrc.go.jp>
(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所
http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(財) 大日本蚕糸会 蚕糸技術研究所
http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html
群馬県蚕糸技術センター (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>蚕糸技術センター)
http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=50545
群馬県繊維工業試験場 (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>繊維工業試験場)
http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=59241
京都府織物・機械金属振興センター
<http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>
京都市産業技術研究所繊維技術センター
<http://www.ktri.city.kyoto.jp/mainpage/sikenjo.html>

【学 会】

日本シルク学会
日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://www.silk.or.jp/ssstj/>
<http://www.soc.nii.ac.jp/~jsss2/>
<http://jswsmo.appspot.com/index.html>

【博物館】

(財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市立野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp/>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp/>
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/silk>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html>

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	49
(2) 養蚕農家数の推移	50
(3) 繭生産数量の推移	51
(4) 平成 23 年度蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	52
(5) 平成 24 年度蚕期別、都府県別繭生産数量	53
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移 (2010 ～ 2012 年)	54
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	55
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	56
(9) 国産生糸価格実態	57
(10) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)	58
(11) 品目別・二次製品輸入数量 (生糸量換算試算)	59
(12) 製糸工場の原料繭需給	60
(13) 製糸工場の操業状況	61
(14) 生糸在庫数量の内訳	62
(15) 蚕糸関係品目別輸入状況	63
(16) 生糸の原産国別輸入数量	64
(17) 絹糸の原産国別輸入数量	65
(18) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	66
(19) 絹織物生産数量	67
(20) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	68
(21) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	69

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	70
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	71
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量・製糸工場数	72
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	73
(5) 中国のシルク類 (生糸・絹糸・絹織物) の輸出状況	74
(6) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	75
(7) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年増減率	76
(8) 中国企業別従業員年間平均賃金及び対前年増減率	77
(9) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	78
(10) 中国省別従業員年平均賃金 (2011 年)	79
(11) ブラジルの繭・生糸生産数量の推移	80
(12) ブラジルの生糸・絹糸輸出数量の推移	81

一資料・国内一

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次 (暦年) Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収穫量 Cocoon Production	1戸当 収穫量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
1996 8年	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
1997 9年	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 10年	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 11年	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 12年	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 13年	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 14年	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 15年	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 16年	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 17年	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 18年	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 19年	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 20年	1,021	382	374	1.6	7	80	38.1	14,043
2009 21年	915	327	357	1.2	7	60	33.6	11,472
2010 22年	756	265	351	0.9	7	49	35.9	11,612
2011 23年	621	220	354	0.7	7	50	34.7	10,418
前年対比 (%) 2011/10	82.1	83.0	100.9	77.8	100.0	102.0	96.7	89.7

資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。

・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(財)大日本蚕糸会調査である。

・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査である。

・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は(社)日本絹人織機工業会調査である。

平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

・平成23年以降の養蚕業は(財)大日本蚕糸会調査である。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)
 ・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)
 ・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009)
 ・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)
 ・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
2009		915	814	647	755
2010		756	650	494	637
2011		621	555	357	526
対前年比 2011/10(%)		82.1	85.4	72.3	82.6

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(3) 繭生産数量の推移
Cocoon Production

年 次 Year	項 目 Item	年 計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
		年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕	年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕
		Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm
		t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
1993		11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170
1994		7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170
1995		5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172
1996		3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173
1997		2,516	982	678	857	398	174	153	167
1998		1,980	769	588	623	390	169	157	151
1999		1,496	596	391	509	371	166	144	155
2000		1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001		1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002		880	330	231	320	373	166	134	167
2003		775	313	210	253	374	167	140	144
2004		675	256	176	243	369	158	128	157
2005		626	243	165	218	396	171	156	162
2006		505	209	122	173	375	172	143	157
2007		433	175	110	148	371	166	152	150
2008		382	147	96	139	374	158	157	162
2009		327	124	85	118	357	152	131	156
2010		265	107	60	98	351	165	121	154
2011		220	95	49	76	354	171	137	144
対前年比 2011/10(%)		83.0	88.8	81.7	77.6	100.9	103.6	113.2	93.5
構成比(%)		100.0	43.2	22.3	34.5				

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2001）.
National Federation of Agricultural Co-operative Associations（2002～2004）.
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（2005～2008年）.
The Dainippon Silk Foundation（2009年～）

(4) 平成23年度蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures in 2011.

(単位:戸、%)

都府県名	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年 間		
	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比	22年	23年	前年対比
青森県	1	0	－	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
岩手県	15	16	106.7	23	19	82.6	23	22	95.7	27	23	85.2
宮城県	21	16	76.2	17	16	94.1	21	17	81.0	28	22	78.6
山形県	10	9	90.0	9	7	77.8	9	8	88.9	11	10	90.9
福島県	71	51	71.8	65	44	67.7	76	56	73.7	83	60	72.3
茨城県	18	24	133.3	20	23	115.0	20	21	105.0	36	27	75.0
栃木県	37	33	89.2	25	24	96.0	38	31	81.6	40	33	82.5
群馬県	283	239	84.5	216	139	64.4	275	227	82.5	314	261	83.1
埼玉県	63	53	84.1	48	39	81.3	59	51	86.4	68	57	83.8
千葉県	10	7	70.0	7	5	71.4	8	8	100.0	11	8	72.7
東京都	6	5	83.3	0	0	－	5	4	80.0	7	6	85.7
神奈川県	9	0	－	10	0	－	10	0	－	12	0	－
新潟県	1	10	1000.0	1	2	200.0	1	0	－	1	10	1000.0
山梨県	24	24	100.0	7	9	128.6	21	20	95.2	27	26	96.3
長野県	28	23	82.1	19	17	89.5	25	21	92.6	31	26	83.9
岐阜県	18	14	77.8	8	0	－	17	17	84.0	21	18	85.7
愛知県	1	1	100.0	0	1	－	0	0	－	1	1	100.0
兵庫県	1	1	100.0	1	1	100.0	1	0	－	1	1	100.0
愛媛県	17	15	88.2	15	10	66.7	18	12	66.7	19	17	89.5
高知県	4	4	100.0	0	0	－	3	2	66.7	5	4	80.0
熊本県	8	5	62.5	2	0	－	4	3	75.0	8	5	62.5
宮崎県	4	2	50.0	0	0	－	2	2	100.0	4	2	50.0
鹿児島県	0	3	300.0	0	0	－	0	3	300.0	0	3	300.0
全国計	650	555	85.4	494	357	72.3	637	526	82.6	756	621	82.1

資料: (財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

(5) 平成24年度蚕期別、都府県別繭生産数量

Cocoon production by prefectures in 2012.

(単位: kg、%)

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			0.0		
	23年	24年	前年対比	23年	24年	前年対比	23年	24年	前年対比	23年	24年	前年対比
青森県	-	-	-	156.3	157.2	100.6%	119.3	131.8	110.5%	275.6	289.0	104.9%
岩手県	1,977.5	1,858.5	94.0%	2,318.9	2,968.4	128.0%	2,474.0	2,225.8	90.0%	6,770.4	7,052.7	104.2%
宮城県	2,127.1	2,305.8	108.4%	2,341.8	2,313.1	98.8%	2,248.6	2,633.0	117.1%	6,717.5	7,251.9	108.0%
山形県	1,315.2	1,200.6	91.3%	767.4	1,013.7	132.1%	1,638.3	1,603.9	97.9%	3,720.9	3,818.2	102.6%
福島県	11,519.5	10,681.1	92.7%	8,972.5	10,834.8	120.8%	13,617.0	14,384.8	105.6%	34,109.0	35,900.7	105.3%
茨城県	4,486.0	3,817.2	85.1%	2,323.2	2,478.9	106.7%	3,028.4	2,704.4	89.3%	9,837.6	9,000.5	91.5%
栃木県	11,488.4	7,663.1	66.7%	5,259.7	4,262.8	81.0%	9,370.2	9,605.6	102.5%	26,118.3	21,531.5	82.4%
群馬県	42,178.0	34,931.3	82.8%	18,729.3	17,645.8	94.2%	28,938.0	27,792.0	96.0%	89,845.3	80,374.1	89.5%
埼玉県	7,692.5	6,520.4	84.8%	3,308.7	2,593.8	78.4%	6,061.7	4,757.8	78.5%	17,062.9	13,872.0	81.3%
千葉県	1,168.6	1,213.3	103.8%	569.4	633.0	111.2%	1,113.4	944.4	84.8%	2,851.4	2,790.7	97.9%
東京都	386.0	235.1	60.9%	-	-	-	163.3	178.5	109.3%	549.3	413.6	75.3%
山梨県	3,665.7	2,978.8	81.3%	805.7	1,095.3	135.9%	2,233.2	1,769.2	79.2%	6,704.6	5,843.3	87.2%
長野県	2,714.3	2,129.2	78.4%	1,765.0	1,855.0	105.1%	2,440.2	1,974.1	80.9%	6,919.5	5,958.3	86.1%
新潟県	186.4	159.8	85.7%	54.3	-	-	-	-	-	240.7	159.8	66.4%
福井県	62.4	32.2	51.6%	21.2	18.9	89.2%	23.0	34.3	149.1%	106.6	85.4	80.1%
岐阜県	1,086.0	874.9	80.6%	-	-	-	614.1	605.0	98.5%	1,700.1	1,479.9	87.0%
愛知県	64.1	36.9	57.6%	-	62.0	-	-	-	-	64.1	98.9	154.3%
兵庫県	42.0	75.0	178.6%	35.0	38.2	109.1%	-	41.5	-	77.0	154.7	200.9%
京都府	111.4	102.5	92.0%	-	-	-	93.3	77.0	82.5%	204.7	179.5	87.7%
愛媛県	1,992.9	1,789.7	89.8%	1,350.5	1,551.1	114.9%	1,482.3	1,386.4	93.5%	4,825.7	4,727.2	98.0%
高知県	228.4	168.7	73.9%	-	-	-	86.7	15.3	17.6%	315.1	184.0	58.4%
熊本県	431.9	449.1	104.0%	-	-	-	91.8	347.9	379.0%	523.7	797.0	152.2%
宮崎県	115.2	120.4	104.5%	-	-	-	67.3	62.9%	93.4%	182.5	183.2	100.4%
鹿児島県	1.5	49.5	3300.0%	-	69.0	-	6.6	51.0	772.7%	8.1	169.5	2092.6%
全国計	95,041.0	79,393.1	83.5%	48,778.9	49,591.0	101.7%	75,910.7	73,331.6	96.6%	219,730.6	202,315.6	92.1%

資料: (財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移 (2010～2012年)

Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item Year	2010年 (平成22年)		2011年 (平成23年)		2012年 (平成24年)	
	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %
錦秋1号 × 鐘和1号	3,420	26.2	2,729	24.6	2,806	27.6
錦秋 × 鐘和	2,400	18.4	2,100	19.0	1,818	17.8
ぐん × ま 200	1,627	12.5	1,388	12.5	1,443	14.2
春嶺1号 × 鐘月1号	2,072	15.9	1,419	12.8	1,175	11.5
春嶺 × 鐘月	1,001	7.7	1,002	9.0	838	8.2
かいりょう × あけぼの	487	3.7	435	3.9	416	4.1
松岡 × 姫	200	1.5	300	2.7	340	3.3
新小 × 石丸	355	2.7	396	3.6	324	3.2
芙蓉 × つくばね	300	2.3	180	1.6	143	1.4
上州 × 絹星	51	0.4	86	0.8		
世紀 × 二一	191	1.5	132	1.2	95	0.9
緑繭 × 1号	56	0.4	62	0.6	27	0.3
プ ラ チ ナ ボーイ	73	0.6	66	0.6	64	0.6
朝日 × 東海			50	0.5	50	0.5
朝日 × つくばね	100	0.8	80	0.7	61	0.6
ぐん × ま 黄金丸	152	1.2	76	0.7	70	0.7
改良 × 小石 1号	87	0.7	78	0.7	33	0.3
白繭 × 細石 丸	115	0.9	77	0.7	93	0.9
小 × 石 丸	75	0.6	72	0.6	67	0.7
蚕 × 太 11号	26	0.2				
蚕技 × 研 106号	53	0.4	52	0.5	36	0.4
分離白1号 × 支 2号	8	0.1				
白繭 × 細青 1号	14	0.1	2	0.0		
新極細 × 小 1号	30	0.2	5	0.0	15	0.1
玉 × 小 石	16	0.1	22	0.2	15	0.1
鷹 × 山 25	25	0.2	20	0.2	5	0.0
支21号 × 四川3眠	4	0.0	6	0.1	4	0.0
又昔 × 中 515号	5	0.0				
青熟 × 支 21号	6	0.0	8	0.1	7	0.1
諸桂 × 紹白	4	0.0	1	0.0	1	0.0
黄熟 × 中 515号	5	0.0	15	0.1	33	0.3
青鬼 × 中 515号	3	0.0	2	0.0	2	0.0
い縮 × 中 515号	1	0.0	1	0.0	1	0.0
鐘ろ × 中 ど	39	0.3	134	1.2	55	0.5
鐘光 × 黄玉	35	0.3	30	0.3		
太平 × 長安	7	0.1	13	0.1	28	0.3
支108号 × 青熟	5	0.0	7	0.1	7	0.1
はく × ぎ 白			22	0.2	80	0.8
秋光 × 竜銀			5	0.0		
秋花 × 又 蚕			3	0.0		
中515号 × 多 繭			2	0.0	2	0.0
琉球 × 黄 繭			2	0.0	7	0.1
改良 × 黄 C5号					10	0.1
山東3眠 × 2号					7	0.1
緑繭 × 2号					7	0.1
合計 Total	13,048	100.0	11,080	100.0	10,185	100.0

資料：(財)大日本蚕糸会調査。

Source：The Dainippon Silk Foundation.

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

年 月 Year & Month	項 Item	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
		生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
		Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year		俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2005		2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006		1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,959	7,578
2007		1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
2008		1,588	15,031	—	20,115	4,584	22,636	466	11,640	7,126
2009		1,152	12,085	—	13,766	4,055	16,647	388	8,996	6,269
2010		882	12,209	—	13,817	3,329	16,306	324	9,029	6,299
2011		731	9,323	—	10,926	2,456	17,526	157	8,546	1,507
生糸年度 Silk Year										
2004		3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005		2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006		1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007		1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2008		1,378	12,137	—	14,638	4,158	18,716	378	10,320	6,806
2009		1,029	12,857	—	14,383	3,661	17,481	366	8,639	6,182
2010		814	12,207	—	13,815	2,935	16,307	324	9,000	6,299
2011		654	8,541	—	9,907	2,348	15,540	433	7,725	5,945
2011 - 10		56	765	—	790	2,462	1,165	78	515	530
11		64	550	—	820	2,256	1,202	47	656	469
12		52	717	—	569	2,456	1,001	32	636	508
2012 1		42	1,185	—	992	2,691	1,590	39	804	291
2		47	481	—	761	2,458	758	13	242	513
3		48	870	—	970	2,467	1,143	37	782	555
4		56	0	—	491	2,032	1,092	25	564	506
5		53	1,757	—	1,494	2,348	1,531	11	668	438
6		49	460	—	631	2,226	1,316	40	692	479
7		36	637	—	627	2,272	1,544	38	605	483
8		24	903	—	626	2,573	1,499	18	575	423
9		33	891	—	1,035	2,462	1,365	6	630	462
10		38	799	—	708	2,591	1,523	43	665	494
11		36	1,122	—	1,062	2,687	1,612	35	624	432

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量 (D) = {前月在庫数量 + (A) + (B)} - {(C) + (E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries (D) = {Stock at end of the previous month + (A) + (B)} - {(C) + (E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の織度別生産数量の推移

Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					
	計	18デニール以下	21デニール	27デニール	31デニール	その他
暦 年 Calendar Year	Total	17/19or 17/19 finer	20/22	26/28	30/32	Others
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
2010	882	1	179	316	86	300
2011	607	1	145	215	80	169
2012	506	0	149	202	73	82
生糸年度						
Silk Year						
2005	2,024	6	261	510	726	518
2006	1,794	4	269	480	562	475
2007	1,762	5	276	443	495	537
2008	1,378	1	291	447	280	360
2009	1,029	—	205	358	208	242
2010	814	1	176	273	55	309
2011	652	1	164	239	117	134
2011 - 5	66	—	18	18	6	24
6	63	—	11	29	7	16
7	59	—	13	23	—	23
8	53	1	9	24	6	13
9	59	—	15	23	6	17
10	56	—	23	14	12	7
11	64	—	6	37	10	12
12	52	—	19	10	16	7
2012 - 1	42	—	7	9	16	10
2	47	—	15	10	17	5
3	48	—	6	33	3	6
4	56	—	17	19	11	9
5	53	—	23	8	13	9
6	49	—	15	29	0	5
7	36	—	11	10	4	11
8	24	—	8	12	0	4
9	33	—	5	21	0	7
10	39	—	14	14	4	7
11	36	—	18	16	0	2
12	43	—	10	21	5	7

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会(2010.4～)。

備 考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3). Central Raw Silk Association (2010.4～)。

Remarks：Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 国産生糸価格実態

Japanese Raw Silk Actual Condition Price

単位：円／k g
(Unit：Yen/k g)

Year & Month \ Size		21d	27d	31d	平均 Average
2005		3,870	3,173	3,107	3,383
2006		4,617	4,267	4,080	4,321
2007		3,961	3,625	3,573	3,720
2008		4,266	3,754	3,489	3,836
2009		4,171	3,598	3,136	3,635
2010		4,152	3,891	3,564	3,869
2011		5,261	4,923	5,260	5,148
2012		5,622	5,094	5,513	5,410
2011 —	1	4,267	4,287	4,127	4,220
	2	4,763	4,737	4,967	4,967
	3	4,800	4,619	4,556	4,658
	4	4,942	4,593	4,865	4,800
	5	5,188	4,699	4,853	4,913
	6	5,200	5,035	4,750	4,995
	7	5,600	5,109	5,327	5,345
	8	5,602	5,106	5,586	5,431
	9	5,778	5,237	6,078	5,698
	10	5,455	5,282	5,872	5,536
	11	5,733	5,138	5,657	5,509
	12	5,800	5,257	6,043	5,700
2012 —	1	5,745	4,908	6,119	5,591
	2	5,788	5,181	6,125	5,698
	3	5,859	5,006	6,177	5,681
	4	5,907	5,391	5,693	5,664
	5	5,190	4,973	5,300	5,154
	6	5,713	5,076	5,167	5,319
	7	5,700	5,088	5,208	5,332
	8	5,600	5,214	5,233	5,349
	9	5,278	4,931	5,267	5,159
	10	6,033	5,138	5,055	5,409
	11	5,168	4,984	5,300	5,151
	12	5,488	5,239	—	5,410

注：国産生糸価格実態は、調査対象生糸売買業者の平均取引価格である。

資料：（社）日本生糸問屋協会

Remarks：Japan raw silk actual condition price is average trade price among domestic dealers

Source：Japan Raw Silk Dealer's Association

(10) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	輸 出 Export				内 需 Domestic Demand ②-③
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second						計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn		
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172	
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167	
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152	
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138	
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135	
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138	
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133	
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131	
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123	
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119	
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113	
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113	
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105	
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100	
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85	
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84	
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77	
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71	
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63	
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47	
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	152	16	0	0	15	1	136	43	
対前年比 2010/09 (%)	95	75	100	102	100	100	107	102	80	100	—	—	100	100	78	91	

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、(社)日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source : "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics" (arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)

After 2000, estimated by Japan Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production, Bureau MAFF.

(11) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year	2005	2006	2007	2008	2009	2010	前年比% y/y	構成比% ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments		2.7	3.7	3.9	2.5	1.8	2.8	155.6	2.1
	女子用外衣類 Women's upper garments		59.9	56.6	50.0	40.2	37.1	38.4	103.5	28.9
	うちブラウス Blouse of the inside		3.7	3.5	3.0	3.4	2.8	2.4	85.7	1.8
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		5.8	5.7	2.2	1.6	1.1	1.0	90.9	0.8
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		16.1	15.1	15.0	16.3	13.5	13.9	103.0	10.5
	ハンカチ Handkerchief		1.9	1.0	0.5	0.5	0.4	0.3	75.0	0.2
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		3.4	2.7	3.0	2.9	2.5	2.2	88.0	1.7
	ネクタイ類 Ties		25.2	21.4	21.6	20.8	18.2	18.1	99.5	13.6
	メリヤス、クロセス編物 Knit.kurose knitting		19.9	18.5	21.2	19.8	15.9	17.9	112.6	13.5
その他の洋装類 Other western clothes			26.7	26.3	25.4	23.7	22.0	21.0	95.5	15.8
洋装類計 Western clothes subtotal			161.6	151.0	143.0	128.3	112.4	115.6	102.8	86.9
和装類計 Japanese clothes subtotal			17.4	18.4	15.5	14.7	15.9	14.5	91.2	10.9
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessories of the inside			14.1	16.0	12.9	12.1	13.9	12.5	89.9	9.4
その他 Others			2.1	2.5	2.5	2.4	1.9	2.9	152.6	2.2
合計 Total			181.0	171.9	161.0	145.4	130.2	133.0	102.2	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」により（社）日本生糸問屋協会で作成したものである。

注：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source:The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"
(arranged by Raw Silk Dealer's Association)

Note :Total may not added up due to round off.

(12) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month		項 目 Item	総 計 Grand Total		
			受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year					
	2005		806	830	589
	2006		600	645	541
	2007		548	581	505
	2008		393	518	378
	2009		308	385	313
	2010		240	299	263
	2011		189	162	237
	2012		191	178	183
生糸年度 Silk Year					
	2005		837	693	390
	2006		562	599	349
	2007		502	583	266
	2008		406	452	224
	2009		324	337	209
	2010		260	281	188
	2011		202	224	144
2011	—	7	36	20	229
		8	34	20	243
		9	13	21	235
		10	41	20	256
		11	19	21	254
		12	0	17	237
2012	—	1	4	15	226
		2	0	16	210
		3	0	16	194
		4	0	19	168
		5	9	18	144
		6	37	16	165
		7	24	12	177
		8	39	7	201
		9	3	11	193
		10	56	14	234
		11	4	11	227
		12	15	23	183

資 料：農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010. 4～)。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010. 4～).

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(13) 製糸工場の操業状況

Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運轉工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運轉可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2005	10	203	126	62	269	111
	2006	9	114	94	82	266	103
	2007	8	112	93	83	266	100
	2008	7	112	90	80	266	90
	2009	7	118	71	60	259	82
	2010	7	118	58	49	247	73
	2011	7	110	57	52	252	65
	2012	7	110	39	35	242	56
2011 —	1	7	118	58	49	20	67
	2	7	118	58	49	21	63
	3	7	118	60	51	23	62
	4	7	118	55	47	21	66
	5	7	110	55	50	20	64
	6	7	110	52	47	21	60
	7	7	110	55	50	22	56
	8	7	110	53	48	20	64
	9	7	110	64	58	21	65
	10	7	110	57	52	21	66
	11	7	110	55	50	21	66
	12	7	110	57	52	21	65
2012 —	1	7	110	51	46	18	63
	2	7	110	48	44	19	63
	3	7	110	47	43	19	63
	4	7	110	53	48	22	57
	5	7	110	60	55	21	56
	6	7	110	50	45	22	56
	7	7	110	38	35	14	57
	8	7	110	24	22	20	52
	9	7	110	29	26	21	52
	10	7	110	40	36	23	56
	11	7	110	41	37	22	58
	12	7	110	39	35	21	56

資 料 : 農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～)。

備 考 : 1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.
2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.
3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(14) 生糸在庫数量の内訳
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	総 計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計	製糸工場	生糸市場	生糸市場外	生糸輸出	受 入	引 渡	在庫数量
		Total	Filatures Mills	Dealers	Domestic Dealers	Ex and Importers	数 量	数 量	Ending Stocks
暦 年 Calendar Year									
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010	3,329	3,329	319	0	2,354	656			
2011	2,456	2,456	288	0	1,651	517			
生糸年度 (6～5) Silk Year									
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008	4,205	4,205	376	15	3,266	515			
2009	3,661	3,661	358	0	2,795	508			
2010	2,999	2,999	285	0	2,014	700			
2011	2,348	2,348	304	0	1,481	583			
2011 — 3	3,563	3,563	288	0	2,511	764			
4	3,154	3,154	288	0	2,182	684			
5	2,999	2,999	285	0	2,014	700			
6	2,932	2,932	213	0	2,110	609			
7	2,872	2,872	229	0	2,095	548			
8	2,882	2,882	243	0	2,168	471			
9	2,431	2,431	281	0	1,729	421			
10	2,462	2,462	273	0	1,664	525			
11	2,256	2,256	282	0	1,559	415			
12	2,456	2,456	288	0	1,651	520			
2012 — 1	2,691	2,691	277	0	1,825	586			
2	2,458	2,458	271	0	1,694	493			
3	2,467	2,467	273	0	1,696	498			
4	2,032	2,032	284	0	1,380	368			
5	2,348	2,348	304	0	1,481	563			
6	2,226	2,226	299	0	1,344	538			
7	2,272	2,272	283	0	1,474	515			
8	2,573	2,573	280	0	1,656	637			
9	2,462	2,462	267	0	1,698	497			
10	2,591	2,591	263	0	1,764	564			
11	2,687	2,687	248	0	1,842	597			

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～)。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～)。

(15) 蚕糸関係品目別輸入状況（平成20年～24年12月）
Breakdown of Silk-Related Products Imports (2008～Dec. 2012)

	単位 Unit	平成24年(2012)		平成24年 (2012)	平成23年 (2011)	平成22年 (2010)	平成21年 (2009)	平成20年 (2008)	24年/23年 2012/11 (%)
		(12月) Dec.	(累計) Accumulated Total						
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	867	10,032	10,032	9,323	12,209	12,085	15,242	107.6
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	1,207	16,179	16,179	17,526	16,306	16,647	22,636	92.3
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	28	81	81	62	82	149	317	130.6
繭 Cocoon	kg	—	6,250	6,250	4,050	13,158	9,800	4,000	154.3
真綿 Floss Silk	kg	—	—	—	—	—	—	29,071	—
ペニエ Peigne	kg	—	—	—	—	—	35,331	2,770	—
くず繭 Waste Cocoon	kg	260	6,457	6,457	10,885	9,395	33,450	23,770	59.3
絹ノイル Silk Noil	kg	—	—	—	—	—	—	202,220	—
その他の絹くず Other Silk Waste	kg	3,220	107,023	107,023	98,732	134,852	103,122	193,125	108.4
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	3,480	113,480	113,480	109,617	144,247	171,903	450,956	103.5
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	44,622	482,523	482,523	394,920	451,219	335,710	526,662	122.2
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	8,472	140,188	140,188	118,404	104,374	97,554	143,585	118.4
絹織物 Silk Fabrics	m ²	552,998	7,403,581	7,403,581	8,545,903	9,029,003	8,996,010	11,540,335	86.6

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(16) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)
(Unit: Bales of 60kg)

国 名 Country		計	中国	ブラジル	ベトナム	タイ	その他
		Total	China	Brazil	Vietnam	Thailand	Others
年 月 Year & Month							
暦 年 Calendar Year							
2008		15,242 (137)	10,969 (102)	4,152 (35)	—	122 (—)	—
2009		12,085 (72)	8,170 (51)	3,855 (21)	0 (—)	41 (—)	—
2010		12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	0	32	—
2011		9,323 (45)	7,170 (20)	2,136 (25)	0	5	—
2012		10,032	8,628	1,403	0	0	—
生糸年度 Silk Year							
2008		12,138 (103)	8,572 (89)	3,435 (14)	11	122	—
2009		12,857 (66)	8,787 (38)	3,896 (28)	11	73	—
2010		12,172 (79)	9,062 (65)	3,068 (14)	1	39	—
2011		8,602 (17)	6,846	1,754 (17)	1	39	—
2011 - 4		372	316	56	—	—	—
5		1,280 (11)	1,082	198	—	—	—
6		760 (7)	416	344 (7)	—	—	—
7		489 (10)	389	100 (10)	—	—	—
8		547	292	254	—	—	—
9		420	420	—	—	—	—
10		765	491	272	—	3	—
11		550	325	225	—	—	—
12		717	697	20	—	3	—
2012 - 1		1,185	1,149	36	—	—	—
2		481	289	193	—	—	—
3		931	870	61	—	—	—
4		0	0	0	—	—	—
5		1,757	1,508	249	—	—	—
6		460	360	99	—	—	—
7		637	526	110	—	—	—
8		903	817	81	—	—	—
9		891	750	141	—	—	—
10		799	660	139	—	—	—
11		1,122	963	159	—	—	—
12		867	736	130	—	—	—

資 料：財務省関税局調査

備 考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(17) 絹糸の原産国別輸入数量 Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年月 Year&Month	国名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year									
2008		22,636	143	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009		16,647	—	9,656	5,096	12	—	1,742	137
2010		16,306	—	9,675	4,161	16	—	1,716	205
2011		17,526	—	10,384	5,129	7	—	1,722	212
2012		16,179	—	9,926	4,908	79	—	1,107	224
生糸年度 Silk Year									
2008		18,716	23	10,677	5,700	11	—	2,242	64
2009		17,481	—	9,940	5,065	7	—	1,953	186
2010		8,101	—	5,186	2,238	8	—	591	81
2011		15,540	—	9,060	4,364	44	—	1,713	303
2011 —	1	1,790	—	1,108	543	—	—	139	—
	2	982	—	559	312	—	—	110	—
	3	1,858	—	1,244	467	2	—	134	10
	4	1,674	—	1,124	448	2	—	99	3
	5	1,797	—	1,151	468	1	—	109	68
	6	1,731	—	906	628	—	—	197	1
	7	1,489	—	910	432	0	—	155	1
	8	1,498	—	730	432	0	—	225	—
	9	1,340	—	745	543	1	—	51	—
	10	1,165	—	542	309	—	—	243	70
	11	1,202	—	672	297	—	—	232	—
	12	1,001	—	692	219	—	—	28	61
2012 —	1	1,590	—	1,075	353	—	—	80	82
	2	758	—	378	216	1	—	162	1
	3	1,143	—	747	281	2	—	113	—
	4	1,092	—	662	326	25	—	103	24
	5	1,531	—	1,001	328	15	—	124	63
	6	1,316	—	727	515	26	—	75	27
	7	1,554	—	907	488	—	—	97	62
	8	1,499	—	897	561	—	—	41	—
	9	1,365	—	773	506	1	—	73	12
	10	1,523	—	953	456	3	—	112	—
	11	1,612	—	982	568	5	—	56	1
	12	1,207	—	824	310	1	—	71	1

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：Country volume may not add up the total volume due to round off.

(18) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価

Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵, K g/円

項 目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
年 月 Year & Month										
暦 年 Calendar Year										
1999	27,446	2,439	14,602	3,026	11,729	2,979	6,069	3,706	2,886	3,277
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2001	22,018	2,824	8,339	3,713	10,303	3,149	5,130	3,790	6,607	3,688
2002	24,521	2,241	7,909	3,192	13,256	2,556	6,097	3,299	7,122	3,053
2003	24,074	1,988	7,260	2,436	17,408	2,182	6,223	2,740	7,167	2,499
2004	18,016	2,435	7,387	3,631	13,280	2,576	7,444	3,038	7,076	2,624
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,627	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,120	2,740	3,965	3,059	9,656	2,840	1,742	3,611	5,116	3,034
2010	8,411	3,667	3,706	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,606	3,411
2011	4,113	4,469	1,413	5,492	6,349	4,707	1,722	5,398	3,659	4,402
2012	8,628	4,289	1,398	5,277	9,926	4,383	1,119	6,032	4,908	4,494
2011 - 5	1,082	4,767	198	4,505	1,151	4,946	109	5,022	468	4,040
6	416	4,792	344	4,510	906	4,967	197	5,412	628	4,579
7	389	4,893	100	5,918	910	4,990	155	5,741	432	4,726
8	292	4,570	254	4,964	730	4,922	255	5,594	763	4,710
9	421	4,483	0	0	745	4,665	51	5,991	543	4,792
10	491	4,174	272	5,310	542	4,735	283	5,833	309	4,655
11	325	4,199	225	5,209	673	4,432	232	6,027	297	4,681
12	697	4,469	20	5,492	692	4,309	28	6,313	219	4,560
2012 - 1	1,149	4,180	36	5,260	1,075	4,131	92	5,958	353	4,345
2	289	4,024	193	5,297	378	4,137	162	5,560	216	4,264
3	870	4,296	61	5,241	747	4,323	113	6,187	281	4,731
4	0	0	0	0	662	4,372	103	6,065	326	4,887
5	1,508	4,311	249	5,220	1,001	4,304	124	6,048	328	4,625
6	360	4,347	99	5,005	727	4,370	75	5,876	515	4,703
7	526	4,220	110	5,013	907	4,502	97	5,930	488	4,591
8	817	4,130	81	5,151	897	4,433	41	5,850	561	4,402
9	750	4,212	141	5,353	773	4,315	73	6,167	506	4,320
10	660	4,151	139	5,333	953	4,295	112	6,224	456	4,435
11	963	4,405	159	5,417	982	4,514	56	6,347	568	4,130
12	736	4,758	130	5,571	824	4,815	71	6,599	310	4,755

資 料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F 価格である。

Source：The customs Bureau, Ministry of Finance

Remarks：A unit price is CIF price.

(19) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)
(Unit：1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
暦 年 Calendar Year									
2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
2009	11,472	4,015	1,732	1,193	1,090	5,663	3,449	2,214	1,794
2010	11,612	3,844	1,510	1,254	1,080	6,212	4,029	2,183	1,556
2011	10,319	3,941	2,486	184	1,257	4,396	1,796	2,590	1,982
2012	9,944	4,533	2,474	199	1,871	3,161	1,769	1,393	2,247
2011 — 8	790	302	190	14	96	336	137	198	152
9	800	305	193	14	98	341	139	201	154
10	833	318	201	15	102	355	145	209	160
11	892	341	215	16	109	380	155	224	171
12	902	345	217	16	110	384	157	226	173
2012 — 1	801	365	199	16	151	255	143	112	181
2	818	373	204	16	154	260	146	115	185
3	829	378	206	17	156	263	147	116	187
4	829	378	206	17	156	263	147	116	187
5	863	393	215	17	162	274	154	121	195
6	883	403	220	18	166	281	157	124	200
7	863	393	215	17	162	274	154	121	195
8	743	339	185	15	140	236	132	104	168
9	716	326	178	14	135	228	127	100	162
10	873	398	217	17	164	278	155	122	197
11	877	400	218	18	165	279	156	123	198
12	849	387	211	17	160	270	151	119	192

資 料：（社）日本絹人織織物工業会。

備 考：絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source：Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks：Spun and mixed fabrics included.

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(20)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item 年月 Year & Month	絹織物生産数量		丹 後 Tango		長 浜 Nagahama		西 陣 Nishijin	
	Silk Fabrics Production		(白生地) (White Fabrics)		(白生地) (White Fabrics)		(帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2005	19,821	90.3	1,058,571	94.5	170,061	92.6	691,780	88.7
2006	18,526	93.5	912,027	86.2	132,448	78.1	598,040	86.4
2007	15,479	83.6	712,560	78.1	97,204	73.0	977,719	163.5
2008	13,914	89.9	656,919	92.2	88,401	90.8	867,490	88.7
2009	9,930	71.4	503,365	76.6	73,681	84.0	746,538	86.1
2010	11,661	117.4	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1
2011	10,319	88.5	475,989	92.3	70,803	84.3	695,143	80.9
2012	9,944	96.4	451,503	94.9	62,910	88.9	645,679	92.9
2010 — 10	995	105.4	46,366	114.9	5,807	96.3	78,060	135.0
11	1,004	102.7	45,283	95.1	6,553	94.7	68,940	104.3
12	966	103.1	45,018	104.1	5,616	92.7	68,067	110.1
2011 — 1	814	97.6	32,734	102.6	5,452	91.0	61,927	96.0
2	873	93.0	42,369	91.7	6,027	94.7	60,552	88.7
3	902	93.5	41,784	95.3	6,898	88.3	56,128	74.1
4	989	99.2	44,774	100.7	6,507	83.6	59,998	69.1
5	840	85.6	39,714	93.4	6,096	89.3	62,562	88.8
6	911	82.6	41,785	94.6	6,072	79.2	60,832	84.0
7	834	82.2	43,509	98.5	5,399	72.9	53,800	84.2
8	779	86.5	34,386	86.3	6,064	82.6	49,057	81.2
9	788	81.9	38,639	82.6	5,394	74.0	61,501	94.7
10	821	82.5	39,116	84.3	5,589	92.5	51,586	66.1
11	879	87.5	37,346	82.5	5,929	84.0	62,567	90.8
12	889	92.0	39,833	88.5	5,376	90.3	52,433	77.0
2012 — 1	801	98.4	29,890	91.3	4,787	87.8	51,823	83.7
2	818	93.7	38,352	90.5	5,632	93.4	65,046	107.4
3	829	91.9	37,766	90.4	5,306	76.9	62,163	110.8
4	829	83.8	42,234	94.3	5,614	86.3	57,688	96.1
5	863	102.7	33,283	83.8	6,109	100.2	56,873	90.9
6	883	96.9	43,214	103.4	5,335	87.9	47,616	78.3
7	863	103.5	39,999	91.9	5,967	110.5	47,268	87.9
8	743	95.0	31,797	92.5	4,052	67.0	45,892	93.5
9	716	91.0	39,579	102.4	5,051	93.6	44,900	73.0
10	873	106.0	36,734	93.9	5,159	92.3	55,813	108.2
11	877	100.5	38,312	102.5	4,994	84.2	56,530	101.3
12	849	95.5	40,343	101.3	4,904	91.2	54,067	103.1
2013 — 1	828	103.3	25,024	83.7	4,453	93.0	54,617	105.4
2			41,930	109.3	4,632	82.2	52,253	80.3

資 料：絹織物生産数量は(社)日本絹人織織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は(社)日本生糸問屋協会調査。

備 考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan. 2006, sash livings are included in sash production.

(21) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item 年月 Year & Month	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing&footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts &sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
暦年Calendar Year												
2004	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 0.2	11,994	▲ 3.3	261	▲ 12.0	4,622	▲ 4.2	2,468	▲ 4.0	1,098	▲ 2.9
2010	290,244	0.3	11,499	▲ 2.9	245	▲ 6.0	4,459	▲ 2.3	2,353	▲ 3.8	1,069	▲ 1.0
2011	284,560	▲ 2.5	11,534	▲ 1.0	283	10.0	4,207	▲ 4.2	2,491	3.1	1,133	2.9
2012	286,169	0.9	11,453	▲ 2.5	246	▲ 7.2	4,305	1.2	2,410	▲ 6.6	1,087	▲ 6.9
2011 - 3	291,900	▲ 8.2	11,013	▲ 16.0	451	92.1	5,014	▲ 19.8	1,772	▲ 15.4	773	▲ 10.2
4	292,559	▲ 2.0	11,212	5.0	92	▲ 20.2	4,183	2.3	2,398	14.0	900	10.0
5	276,159	▲ 1.2	11,906	▲ 0.7	49	▲ 60.7	4,099	0.4	2,789	▲ 1.1	1,158	7.6
6	265,807	▲ 3.5	11,384	▲ 0.6	113	44.8	3,620	▲ 7.0	2,907	5.5	1,234	11.8
7	280,046	▲ 2.1	12,078	▲ 1.9	281	▲ 63.3	4,068	4.0	3,103	1.9	1,329	6.1
8	282,008	▲ 4.1	8,921	1.8	456	159.0	2,693	▲ 9.6	2,059	▲ 2.8	943	▲ 0.5
9	270,010	▲ 1.9	8,709	▲ 5.0	221	▲ 44.4	2,966	▲ 3.7	1,895	▲ 1.6	863	▲ 5.1
10	285,605	▲ 0.4	13,099	2.3	625	161.8	5,023	▲ 0.2	2,790	4.8	1,201	▲ 7.4
11	273,428	▲ 3.2	13,230	5.6	490	122.6	5,026	0.1	2,649	10.0	1,280	▲ 1.1
12	328,080	0.5	13,786	7.7	54	▲ 21.5	5,382	3.3	2,547	10.9	1,644	15.9
2012 - 1	283,124	▲ 2.3	13,148	4.3	271	125.6	5,496	0.9	2,675	5.5	1,132	▲ 0.2
2	267,855	2.3	8,829	0.5	380	34.9	3,713	▲ 3.3	1,543	4.5	733	0.4
3	303,841	3.4	12,167	10.2	148	▲ 67.1	5,512	10.2	2,065	13.2	878	14.9
4	301,948	2.6	11,687	4.3	95	2.9	4,399	5.4	2,434	1.1	934	5.0
5	287,911	4.0	11,592	▲ 2.5	124	150.1	3,801	▲ 7.2	2,771	▲ 0.7	1,072	▲ 6.6
6	269,810	1.6	11,208	▲ 1.4	169	49.2	3,627	0.4	2,760	▲ 5.4	1,169	▲ 4.5
7	283,295	1.7	11,920	▲ 1.5	239	▲ 15.4	3,923	▲ 3.7	3,161	0.7	1,286	▲ 2.8
8	286,036	1.8	8,627	▲ 3.0	381	▲ 17.1	2,685	0.0	2,062	0.5	960	1.9
9	266,705	▲ 0.9	8,436	▲ 2.9	188	▲ 15.8	2,900	▲ 1.9	1,876	▲ 1.0	837	▲ 2.5
10	284,238	▲ 0.1	12,195	▲ 6.7	244	▲ 61.4	4,637	▲ 7.5	2,559	▲ 8.2	1,129	▲ 5.6
11	273,772	0.2	13,814	4.8	545	10.3	5,394	7.8	2,541	▲ 3.8	1,382	8.5
12	325,492	▲ 0.7	13,813	0.5	172	215.0	5,571	4.0	2,475	▲ 2.7	1,526	▲ 6.9

資料：総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考：「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4項目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source: Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks: Clothing&footwear includes japanese clothing, clothing, shirts&sweaters and other items.

Year value is mean of the each month

－資料・海外－

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2005年	2006年	2007年
		トン	トン	トン
日本	Japan	626	505	433
中国	China	621,461	739,715	779,261
インド	India	126,261	135,462	132,038
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	7,146	8,051	8,617
タイ	Thailand	10,650	10,100	1,785
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	2,543	2,104	1,665
トルコ	Turkey	170	350	130
インドネシア	Indonesia	691	339	470
ブルガリア	Bulgaria	42	65	55
ギリシャ	Greece	70	100	104
フィリピン	Philippines	14.4	16	9
シリア	Syria	5.5	3	2.5
主要国の計	Total	810,680	937,810	965,570

区 分		2008年	2009年	2010年
		トン	トン	トン
日本	Japan	382	327	265
中国	China	683,387	575,299	617,915
インド	India	124,834	131,661	131,924
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	6,266	4,835	4,439
タイ	Thailand	7,700	4,655	4,655
ウズベキスタン	Uzbekistan	25,760	25,896	20,000
イラン	Iran	1,185	1,185	1,185
トルコ	Turkey	126	140	140
インドネシア	Indonesia	273	133	161
ブルガリア	Bulgaria	48	51	75
ギリシャ	Greece	100	100	100
フィリピン	Philippines	6	4	4
シリア	Syria	3	4	4
主要国の計	Total	871,070	765,290	801,867

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2005年		2006年		2007年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	151	2,500	119	2,000	105	1,800
中国	China	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000	108,420	1,807,000
インド	India	15,445	257,400	16,525	275,400	16,245	270,800
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,285	21,400	1,387	23,100	1,220	20,300
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,080	18,000	760	12,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	395	6,600	324	5,400	253	4,200
トルコ	Turkey	30	500	25	400	20	300
インドネシア	Indonesia	91	1,500	47	800	65	1,100
ブルガリア	Bulgaria	6	100	5	100	7.5	100
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1.1	0	1.6	0	1	0
シリア	Syria	0.7	0	0.5	0	0	0
主要国の計	Total	109,940	1,832,300	115,973	1,933,100	130,451	2,174,200

区 分		2008年		2009年		2010年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	95	1,600	69	1,200	53	900
中国	China	98,620	1,643,700	92,455	1,540,900	95,778	1,596,300
インド	India	15,610	260,200	16,322	272,000	16,360	272,700
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,177	19,600	811	13,500	770	12,800
タイ	Thailand	1,100	18,300	665	11,100	665	11,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,417	23,600	2,447	40,800	2,100	35,000
イラン	Iran	180	3,000	180	3,000	180	3,000
トルコ	Turkey	15	300	20	300	20	300
インドネシア	Indonesia	37	600	19	300	20	300
ブルガリア	Bulgaria	7.5	100	6.3	100	9.4	160
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1	0	1	0	1	0
シリア	Syria	0.4	0	0.6	0	0.6	0
主要国の計	Total	120,514	2,008,600	115,250	1,920,800	118,211	1,970,160

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド纖維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(3)中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量・製糸工場数

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2009	2010	対前年比 2010/09	2009	2010	対前年比 2010/09
山 西	Shanxi	4,046	5,894	146	266	182	68
河 北	Hebei	1,200	1,500	125	-	-	-
江 蘇	Jiangsu	73,175	77,399	106	17,800	16,000	90
浙 江	Zhejiang	45,600	57,000	125	15,000	14,436	96
安 徽	Anhui	24,800	25,000	101	5,200	6,438	124
江 西	Jiangxi	7,602	7,000	92	2,900	3,591	124
山 東	Shandong	23,900	22,000	92	5,800	7,510	129
河 南	Henan	10,101	7,500	74	2,100	103	5
湖 北	Hubei	17,150	10,600	62	555	446	80
湖 南	Hunan	3,182	2,452	77	104	197	189
広 東	Guangdong	53,321	39,300	74	1,722	1,711	99
広 西	Guangxi	172,900	214,000	124	16,237	18,164	112
重 慶	Chongqing	17,311	17,200	99	4,200	4,000	95
四 川	Sichuan	70,000	71,000	101	14,900	14,900	100
貴 州	Guizhou	2,751	1,460	53	105	134	128
雲 南	Yunnan	30,230	40,000	132	2,237	2,138	96
陝 西	Shaanxi	17,200	17,600	102	3,263	3,664	112
甘 肅	Gansu	253	304	120	-	-	-
寧 夏	Ningxia	126	126	100	-	-	-
新 疆	Xinjiang	450	580	129	-	-	-
内 蒙 古	Inner Mongolia	-	-	-	66	64	97
合 計	Total	575,299	617,915	107	92,455	95,778	104

製糸工場数（件） Number of Filatures		
2006	2008	前年比 2008/06
702	682	97

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移

Domesticated Cocoon Production in China (1998年～2009年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	前年比 10/09(%)
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	0.1	0.1	0.2	125
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	0.6	0.4	0.6	146
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai						0.0	0.0						
江 蘇	Jiangsu	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	9.5	7.3	7.7	106
浙 江	Zhejiang	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	6.4	4.6	5.7	125
安 徽	Anhui	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	3.3	2.5	2.5	101
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	1.0	0.8	0.7	92
山 東	Shandong	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	3.5	2.4	2.2	92
河 南	Henan	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	1.2	1.0	0.8	74
湖 北	Hubei	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	2.1	1.7	1.1	62
湖 南	Hunan			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.2	77
広 東	Guangdong	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	7.1	5.3	3.9	74
広 西	Guangxi	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	17.1	17.3	21.4	124
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	2.2	1.7	1.7	99
四 川	Sichuan	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	6.9	7.0	7.1	101
貴 州	Guizhou	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	0.3	0.1	53
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	4.0	3.0	4.0	132
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	2.4	1.7	1.8	102
甘 肅	Gansu						0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia						0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	
新 疆	Xinjiang	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
合 計	Total	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	68.3	57.5	61.8	107

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(5) 中国のシルク類(生糸、絹糸、絹織物)の輸出状況

Silk Exports of China
(2012年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル)(USD1,000,000)	
		2012年実績	12/11 (%)	2012年実績	12/11 (%)
1 インド	India	4,505,837	109.52	210.390	100.64
2 ベトナム	Vietnam	783,904	125.53	38.084	124.02
3 ルーマニア	Romania	729,411	100.11	35.729	93.89
4 日本	Japan	482,249	119.68	25.830	114.45
5 韓国	South Korea	412,421	88.43	20.393	83.14
6 イタリア	Italy	309,833	99.30	15.627	90.46
7 バングラデシュ	Bangladesh	105,212	119.12	4.869	111.62
8 ミャンマー	Myanmar	99,217	120.59	4.827	114.80
9 ブラジル	Brazil	41,321	93.39	2.253	95.72
10 ブルガリア	Bulgaria	39,232	250.59	2.008	237.55
11 その他	Others	165,357	68.19	8.442	66.12
合計	Total	7,673,994	107.75	368.452	100.47

相手国	Country	絹糸 Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル)(USD1,000,000)	
		2012年実績	12/11 (%)	2012年実績	12/11 (%)
1 日本	Japan	655,083	100.22	35.489	94.83
2 インド	India	399,229	45.92	19.203	43.04
3 イタリア	Italy	370,973	69.85	19.699	64.49
4 ドイツ	Germany	256,806	128.67	13.932	135.84
5 パキスタン	Pakistan	249,628	92.67	12.357	88.13
6 韓国	South Korea	188,559	103.41	9.625	98.64
7 タイ	Thailand	108,350	79.70	5.628	71.47
8 インドネシア	Indonesia	75,921	80.69	3.737	76.81
9 ベトナム	Vietnam	47,662	143.83	2.312	135.88
10 香港	Hong Kong	27,214	205.14	1.036	197.85
11 その他	Others	196,543	97.95	9.827	94.46
合計	Total	2,575,968	80.94	133.927	78.30

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル)(USD1,000,000)	
		2012年実績	12/11 (%)	2012年実績	12/11 (%)
1 パキスタン	Pakistan	60,795,118	123.71	221.429	136.62
2 イタリア	Italy	30,611,776	91.29	173.999	93.77
3 インド	India	22,883,399	71.21	107.334	74.15
4 香港	Hong Kong	14,413,983	98.38	104.429	102.96
5 韓国	South Korea	11,463,400	82.42	76.701	91.32
6 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	9,815,910	134.63	61.898	169.70
7 日本	Japan	9,265,038	89.70	43.154	92.75
8 マレーシア	Malaysia	7,114,607	111.84	38.315	100.89
9 米国	United States	5,571,051	89.10	42.063	95.11
10 トルコ	Turkey	3,799,272	73.73	21.575	79.00
11 その他	Others	1,251,674	80.75	166.336	89.02
合計	Total	206,985,228	95.19	943.958	100.01

資料:中国税関

Source:Customs General Administration in China

(6) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格

2013年3月 平均

区分	商品名称	規格	価格幅(元/kg)	価格幅(円/kg)
1	乾繭		116.2～126.5	1,627～1,771
2	玉繭		89.5～100.2	1,253～1,403
3	キビソ	(多条機)	92.6～107.9	1,296～1,511
4	キビソ	(自動機)	103.7～113.2	1,452～1,585
5	ビス		72.2～81.0	1,011～1,134
6	生糸	21d、工場検査	371.0～374.9	5,194～5,249
7	生糸	21d、検驗局検査	374.8～380.3	5,247～5,324
8	生糸	42d、工場検査	361.5～368.0	5,061～5,152
9	玉糸	110d	310.4～331.4	4,346～4,640
10	土糸	110d	282.7～293.5	3,958～4,109
区分	商品名称	規格	価格幅(元/メートル)	価格幅(円/メートル)
11	羽二重	45吋10匁	33.96～35.04	475～491
12	羽二重	45吋8匁	28.33～29.38	397～411
13	シャンタン	45吋16匁	50.50～51.50	707～721
14	サテン	45吋16匁	53.21～54.30	745～760
15	クレープデシン	45吋13.5匁	45.42～46.42	636～650
16	クレープデシン	45吋12匁	39.46～40.71	552～570

2013年4月1日～4月12日 平均

区分	商品名称	規格	価格幅(元/kg)	価格幅(円/kg)
1	乾繭		114.2～122.5	1,599～1,715
2	玉繭		91.8～100.6	1,285～1,408
3	キビソ	(多条機)	90.0～97.5	1,260～1,365
4	キビソ	(自動機)	102.4～107.7	1,434～1,508
5	ビス		71.3～77.7	998～1,088
6	生糸	21d、工場検査	364.0～368.0	5,096～5,152
7	生糸	21d、検驗局検査	365.3～369.5	5,114～5,173
8	生糸	42d、工場検査	355.0～359.0	4,970～5,026
9	玉糸	110d	306.9～316.8	4,297～4,435
10	土糸	110d	285.7～295.2	4,000～4,133
区分	商品名称	規格	価格幅(元/メートル)	価格幅(円/メートル)
11	羽二重	45吋10匁	33.63～34.63	471～485
12	羽二重	45吋8匁	28.25～29.25	396～410
13	シャンタン	45吋16匁	50.0～51.0	700～714
14	サテン	45吋16匁	52.63～53.63	737～751
15	クレープデシン	45吋13.5匁	45.38～46.38	635～649
16	クレープデシン	45吋12匁	39.0～40.00	546～560

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表

注:1元=14円

(7) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年増減率

Total Wage Bill of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	賃金総額 (億元) Wage Bill (100million yuan)				対前年増減率 (%) Indices (preceding year=100)			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1996年	9,249.4	6,893.3	1,269.4	801.7	12.0	11.7	4.9	19.2
1997年	9,602.4	7,323.9	1,283.9	994.5	3.8	6.2	1.1	24.0
1998年	9,540.2	6,934.6	1,054.9	1,550.7	▲ 0.6	▲ 5.3	▲ 17.8	55.9
1999年	10,155.9	7,289.9	995.8	1,870.1	6.5	5.1	▲ 5.6	20.6
2000年	10,954.7	7,744.9	950.7	2,259.1	7.9	6.2	▲ 4.5	20.8
2001年	12,205.4	8,515.2	898.5	2,791.7	11.4	9.9	▲ 5.5	23.6
2002年	13,638.1	9,138.0	863.9	3,636.2	11.7	7.3	▲ 3.9	30.3
2003年	15,329.6	9,911.9	867.1	4,550.6	12.4	8.5	0.4	25.1
2004年	17,615.0	11,038.2	876.2	5,700.6	14.9	11.4	1.0	25.3
2005年	20,627.1	12,291.7	906.4	7,429.0	17.1	11.4	3.4	30.3
2006年	24,262.3	13,920.6	983.8	9,357.9	17.6	13.3	8.5	26.0
2007年	29,471.5	16,689.1	1,108.1	11,674.3	21.5	19.9	12.6	24.8
2008年	35,289.5	19,487.9	1,203.2	14,598.4	19.7	16.8	8.6	25.0
2009年	40,288.2	21,862.7	1,273.3	17,152.1	14.2	12.2	5.8	17.5
2010年	47,269.9	24,886.4	1,433.7	20,949.7	17.3	13.8	12.6	22.1
2011年	59,954.7	28,954.8	1,737.4	29,262.4	26.8	16.3	21.2	39.7

資料：中国統計年鑑(2012)

Source: China Statistical Yearbook 2012

(8) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年増減率

Average Wage of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	年平均賃金（元） Average Wage (yuan)				対 前 年 増 減 率（％）Indices(preceding year=100)							
					名 目 賃 金Average Wage				実 質 賃 金Average Real Wage			
	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1996年	5,980	6,207	4,312	8,521	11.8	11.8	9.6	10.3	2.8	2.7	0.7	1.3
1997年	6,444	6,679	4,516	9,092	7.8	7.6	4.7	6.7	4.5	4.4	1.6	3.5
1998年	7,446	7,579	5,314	9,241	15.5	13.5	17.7	1.6	16.2	14.2	18.4	2.3
1999年	8,319	8,443	5,758	10,142	11.7	11.4	8.4	9.8	13.2	12.9	9.8	11.2
2000年	9,333	9,441	6,241	11,238	12.2	11.8	8.4	10.8	11.3	10.9	7.5	9.9
2001年	10,834	11,045	6,851	12,437	16.1	17.0	9.8	10.7	15.3	16.2	9.0	9.9
2002年	12,373	12,701	7,636	13,486	14.2	15.0	11.5	8.4	15.4	16.2	12.6	9.5
2003年	13,969	14,358	8,627	14,843	12.9	13.0	13.0	10.1	11.9	12.0	12.0	9.1
2004年	15,920	16,445	9,723	16,519	14.0	14.5	12.7	11.3	10.3	10.9	9.1	7.7
2005年	18,200	18,978	11,176	18,362	14.3	15.4	14.9	11.2	12.5	13.6	13.1	9.4
2006年	20,856	21,706	12,866	21,004	14.6	14.4	15.1	14.4	12.9	12.7	13.4	12.7
2007年	24,721	26,100	15,444	24,271	18.5	20.2	20.0	15.6	13.4	15.0	14.8	10.6
2008年	28,898	30,287	18,103	28,552	16.9	16.0	17.2	17.6	10.7	9.8	11.0	11.4
2009年	32,244	34,130	20,607	31,350	11.6	12.7	13.8	9.8	12.6	13.7	14.8	10.8
2010年	36,539	38,359	24,010	35,801	13.3	12.4	16.5	14.2	9.8	8.9	12.9	10.7
2011年	41,799	43,483	28,791	41,323	14.4	13.4	19.9	15.4	8.6	7.7	13.9	9.6

中国統計年鑑2012 Source:China Statistical Yearbook 2012

(9)中国産業別従業員年平均賃金の推移

Average Wage of Employed Persons in Urban Units by Sector

(単位:元)(yuan)

産業別 Sector	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
農、林、牧、漁業 Agriculture, Forestry, Fishery	7,498	8,207	9,269	10,847	12,560	14,356	16,717	19,469
採掘業 Mining	16,774	20,449	24,125	28,185	34,233	38,038	44,196	52,230
製造業 Manufacturing	14,251	15,934	18,225	21,144	24,404	26,810	30,916	36,665
電力、ガス、水道業 Production/Distribution of Electricity, Gas and Water	21,543	24,750	28,424	33,470	38,515	41,869	47,309	52,723
建築業 Construction	12,578	14,112	16,164	18,482	21,223	24,161	27,529	32,103
交通、運輸、倉庫、郵便業 Transport, Storage and Post	18,071	20,911	24,111	27,903	32,041	35,315	40,466	47,078
情報通信コンピューターサービス Information Transmission, Computer Service and Software	33,449	38,799	43,435	47,700	54,906	58,154	64,436	70,918
卸売、小売業 Wholesale and Retail Trades	13,012	15,256	17,796	21,074	25,818	29,139	33,635	40,654
ホテル、飲食業 Hotels and Catering Services	12,618	13,876	15,236	17,046	19,321	20,860	23,382	27,486
金融業 Financial Intermediation	24,299	29,229	35,495	44,011	53,897	60,398	70,146	81,109
不動産業 Real Estate	18,467	20,253	22,238	26,085	30,118	32,242	35,870	42,837
賃貸、リース業 Leasing and Business Services	18,723	21,233	24,510	27,807	32,915	35,494	39,566	46,976
科学研究、技術サービス業 Scientific Research, Technical Services	23,351	27,155	31,644	38,432	45,512	50,143	56,376	64,252
水利、環境管理業 Manage of Water Conservancy, Environment and Public Services	12,884	14,322	15,630	18,383	21,103	23,159	25,544	28,868
家庭サービス業 Services to Households and Other Services	13,680	15,747	18,030	20,370	22,858	25,172	28,206	33,169
教育 Education	16,085	18,259	20,918	25,908	29,831	34,543	38,968	43,194
衛生、社会保障、社会福祉業 Health, Social Securities and Entertainment	18,386	20,808	23,590	27,892	32,185	35,662	40,232	46,206
文化、スポーツ、娯楽業 Culture, Sports and Entertainment	20,522	22,670	25,847	30,430	34,158	37,755	41,428	47,878
公共機関、社会团体 Public Management and Social Organization	17,372	20,234	22,546	27,731	32,296	35,326	38,242	42,062
合計 Total	15,920	18,200	20,856	24,721	28,898	32,244	36,539	41,799

(出所)中国統計年鑑2012

Source: China Statistical Yearbook 2012

上記を円(Yen)換算

産業別 Sector	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
製造業 Manufactur	192,389	212,560	273,375	317,160	366,060	375,340	401,908	476,645
合計 Total	214,920	242,788	312,840	370,815	433,470	451,416	475,007	543,387
年別人民元yuan/円yenレート	13.50	13.34	15.00	15.00	15.00	14.00	13.00	13.00

(10) 中国省別従業員年平均賃金 (2011年)

Average Wage of Employed Persons Urban Units by Region

省（区）別 Region			年平均賃金(単位: 元)(yuan)	円換算(円) (yen)	対全国平均比(%) Indices(average=100)
北	京	Beijing	75,482	981,266	180.58
天	津	Tianjin	55,658	723,554	133.16
河	北	Hebei	35,309	459,017	84.47
山	西	Shanxi	39,230	509,990	93.85
内	蒙	Inner Mongolia	41,118	534,534	98.37
遼	寧	Liaoning	38,154	496,002	91.28
吉	林	Jilin	33,610	436,930	80.41
黒	龍	Heilongjiang	31,302	406,926	74.89
上	海	Shanghai	75,591	982,683	180.84
江	蘇	Jiangsu	45,487	591,331	108.82
浙	江	Zhejiang	45,162	587,106	108.05
安	徽	Anhui	39,352	511,576	94.15
福	建	Fujian	38,588	501,644	92.32
江	西	Jiangxi	33,239	432,107	79.52
山	東	Shandong	37,618	489,034	90.00
河	南	Henan	33,634	437,242	80.47
湖	北	Hubei	36,128	469,664	86.43
湖	南	Hunan	34,586	449,618	82.74
広	東	Guangdong	45,060	585,780	107.80
広	西	Guangxi	33,032	429,416	79.03
海	南	Hainan	36,244	471,172	86.71
重	慶	Chongqing	39,430	512,590	94.33
四	川	Sichuan	37,330	485,290	89.31
貴	州	Guizhou	36,102	469,326	86.37
雲	南	Yunnan	34,004	442,052	81.35
西	蔵	Tibet	49,464	643,032	118.34
陝	西	Shaanxi	38,143	495,859	91.25
甘	肅	Gansu	32,092	417,196	76.78
青	海	Qinghai	41,370	537,810	98.97
寧	夏	Ningxia	42,703	555,139	102.16
新	疆	Xinjiang	38,238	497,094	91.48
全国平均		Average	41,799	543,387	100.00

(出所) 中国統計年鑑2012 Source: China Statistical Yearbook 2012

(注) 1元=13円 Note: 1yuan=13yen

(11)ブラジルの繭・生糸生産数量の推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1991/92	17,586
1992/93	19,134
1993/94	18,260
1994/95	16,260
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11	3,038 (68%)
2011/12	2,619 (86%)
2012/2013 〔見込み〕 [Estimate]	2,431 (93%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1991	2,077,155	34,619
1992	2,296,053	38,268
1993	2,325,809	38,763
1994	2,535,440	42,257
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	770,000 (95%)	12,833
2011	557,633 (72%)	9,294
2012	439,504 (79%)	7,325

資料:ブラタク製糸株式会社

注:()内は対前年比

〔〕内の見込みは2013年3月現在

Source: Fiação de Seda Brtac S.A

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of March 2013.

(12)ブラジルの生糸・絹糸輸出数量の推移

Raw Silk and Thrown Silk Yarns Exportation

区 分		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
		kg %	kg %	kg %	kg %	kg %
日本	Japan	388,498 34%	442,264 44%	296,578 34%	294,346 38%	245,106 48%
ベトナム	Vietnam	381,433 33%	243,950 25%	308,464 36%	217,347 28%	126,563 25%
フランス	France	96,764 8%	101,391 10%	74,747 9%	53,441 7%	87,886 17%
イタリア	Italy	93,903 8%	83,032 8%	68,418 8%	143,159 19%	39,295 8%
韓国	South Korea	33,924 3%	43,844 4%	25,259 3%	27,916 4%	0
トルコ	Turkey	54,529 5%	21,370 2%	16,165 2%	21,131 3%	3,660 1%
ドイツ	Germany		6,095 1%		3,742 0%	6,143 1%
インド	India	68,687 6%	38,072 4%	73,181 8%	3,600 0%	0
チュニジア	Tunisia	8,466 1%	2,428 0%		2,609 0%	1,205 0%
スイス	Switzerland	17,861 2%	11,344 1%	758 0%	256 0%	0
その他	the others	6,232 0%	1,012 0%	3,189 0%	242 0%	200 0%
合 計	Total	1,150,297 100%	994,801 100%	866,759 100%	767,789 100%	510,058 100%

資 料 : ブラタク製糸株式会社

Source : Fiação de Seda Brtac S.A

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

シルクレポート 2013 年 5 月号 NO.30 平成 25 年 5 月 1 日発行

編集 / 発行
(問い合わせ先)

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター
〒 100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 5 階
TEL : 03-3214-3500
FAX : 03-3214-3511
URL:<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず